

外付け Ultra SCSI ハードディスク

DSC-UGTR シリーズ

ユーザーズマニュアル

	確認しよう	7	1
	使いかたを考えよう	13	2
	取り付けてみよう	18	3
DOS/V PC98-NX	必ずフォーマットしよう	20	4
	Windows98/95	21	
	WindowsNT4.0/3.51	32	
	Windows3.1/DOS	34	
PC-9821	必ずフォーマットしよう	36	5
	Windows98/95	37	
	WindowsNT4.0/3.51	45	
	Windows3.1/MS-DOS	46	
	付録	49	A

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク **▲注意** に続く説明文は、製品を取り扱う際に特に注意していただきたい事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。

次の動作マーク **▶次へ** に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。

文中の用語表記

- 本書では、次のようなドライブ構成を想定して説明しています。
A: 3.5インチフロッピーディスクドライブ
C: ハードディスクドライブ
- 本製品名を「DSC」と表記しています。
- 文中 [] で囲んだ名称は、ダイアログボックスの名称や操作の際に選択するメニュー、ボタン、チェックボックスなどの名称を表しています。
- キーは、キーボード上のキーを表しています。(例)
- MS-DOSとPC DOSを合わせて「DOS」と表記しています。
- 本書に記載されているハードディスク容量は、1GB = 1000³byte で計算しています。OSやアプリケーションでは1GB = 1024³byte で計算されているため、表示される容量が異なります。

本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部または全部を弊社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられています。

本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

本書では™、®、©などのマークは記載していません。

本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。

本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社インフォメーションセンターまでご連絡ください。また、本製品の使用に起因する損害や逸失利益の請求などにつきましては、上記にかかわらず弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

本製品は日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外で使用した場合の運用結果につきましては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。また弊社は、本製品に関して海外での保守および技術サポートは行っておりません。

本製品のうち、外国為替および外国貿易管理法の規定により戦略物資等(または役務)に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可(または役務取引許可)が必要です。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい事項を記載しました。

正しく使用するために、必ずお読みになり内容をよく理解された上で、お使いください。なお、本書には弊社製品だけでなく、弊社製品を組み込んだパソコンシステム運用全般に関する注意事項も記載されています。

パソコンの故障/トラブルや、いかなるデータの消失・破損または、取り扱いを誤ったために生じた本製品の故障/トラブルは、弊社の保証対象には含まれません。あらかじめご了承ください。

使用している表示と絵記号の意味

警告表示の意味

 警告	絶対に行ってはいけないことを記載しています。この表示の注意事項を守らないと、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、使用者がけがをしたり、物的損害の発生が考えられる内容を示しています。

絵記号の意味

	は、警告・注意を促す記号です。 の近くに具体的な警告内容（例：  感電注意）が描かれています。
	に斜線は、してはいけない事項（禁止事項）を示す記号です。の中や近くに、具体的な禁止事項が描かれています。（例：  分解禁止）
	は、しなければならない行為を示す記号です。の近くに、具体的な指示内容（例：  プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告



本製品に液体をかけたり、異物を内部に入れたりしないでください。液体や異物が内部に入ったら、パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。



風呂場など、水分や湿気が多い場所では、本製品を使用しないでください。火災になったり、感電、故障する恐れがあります。



本製品の分解や改造や修理を自分でしないでください。火災や感電の恐れがあります。



電源プラグを
抜く

煙が出たり変な臭いや音がしたら、パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。



電源プラグを
抜く

本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。与えてしまった場合は、すぐに電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

本製品は精密機器です。衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。衝撃は本製品の故障の原因となります。



電源プラグを
抜く

本製品の取り付け、取り外しをするときは、パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

電源プラグがコンセントに接続されたまま、取り付け、取り外しを行うと、感電および故障の原因となります。



禁止

AC100V(50/60Hz)以外のACコンセントには、絶対に電源プラグを差し込まないでください。

海外などで異なる電圧で使用するとショートしたり、発煙や火災の恐れがあります。



禁止

濡れた手で本製品に触れないでください。

パソコンおよび周辺機器の電源プラグがACコンセントに接続されているときは、感電の原因となります。また、ACコンセントに接続されていなくても故障の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけたり、加工、加熱、修復しないでください。火災になったり、感電する恐れがあり、本製品の故障の原因ともなります。

- ・ 設置時に、電源コードを壁やラック（棚）などの間にはさみ込んだりしないでください。
- ・ 重いものをのせたり、引っ張ったりしないでください。
- ・ 熱器具を近付けたり、加熱しないでください。
- ・ 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
- ・ 極端に折り曲げないでください。
- ・ 電源コードを接続したまま、機器を移動しないでください。

万一、電源コードが傷んだら、弊社インフォメーションセンターまたは、お買い上げの販売店にご相談ください。



強制

小さなお子様で電気製品を使用する場合には、本製品の取り扱い方法を理解した大人の監視、指導のもとで行うようにしてください。



強制

電気製品の内部やケーブル、コネクタ類に小さなお子様の手が届かないように機器を配置してください。

さわってけがをする恐れがあります。



強制

本製品を取り付け、使用する際は、必ずパソコンメーカーおよび周辺機器メーカーが提示する警告や注意指示に従ってください。



強制

電源コード、SCSIケーブルは必ず本製品付属のもの、または同等のもの（弊社製接続キット）をご使用ください。

本製品付属以外の電源コード、SCSIケーブルをご使用になると、電圧や端子の極性が異なることがあるため、発煙、発火の恐れがあります。本製品の故障の原因ともなります。



強制

電源プラグは、ACコンセントに完全に差し込んでください。

差し込みが不完全なまま使用すると、ショートや発熱の原因となり、火災や感電の恐れがあります。

注意



禁止

ハードディスク、MO、フロッピーディスクドライブなどのデータの格納用機器へのアクセス中は、パソコンや機器の電源をOFFにしたり、リセットしないでください。

データを消失、破損する恐れがあります。データが消失、破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。



強制

各接続コネクタのチリやほこり等は、取りのぞいてください。

各接続コネクタには手を触れないでください。

故障の原因となります。



禁止

本製品の上に物を置かないでください。

傷がついたり、故障の原因となります。



禁止

通風口をふさいだり、他の機器と密着させないでください。

故障の原因となります。



禁止

アクセスランプが点灯している間は、電源スイッチをOFFにしたり、システムをリセットしないでください。



禁止

シンナーやベンジン等の有機溶剤で、本製品を拭かないでください。

本製品のよごれは、乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどい場合は、きれいな布に中性洗剤を含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。



禁止

パソコンおよび周辺機器の電源がONの状態、SCSIケーブルの抜き差しをしないでください。

本製品および周辺機器の故障の原因となります。



強制

静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

人体などからの静電気は、本製品を破損、またはデータを消失、破損させる恐れがあります。



強制

パソコンおよび周辺機器の取扱いは、各マニュアルをよく読んで、各メーカーの定める手順に従ってください。



アースを接続

配線作業の前にアースを接続してください。

配線作業をする前に、本製品および本製品に接続するすべての機器（パソコンや SCSI 機器等）にアースを接続してください。



強制

本製品の電源スイッチをONにするときは、パソコンより先に行ってください。電源スイッチのON/OFFは、少なくとも数秒の間隔をあけて行ってください。本製品の故障、データの消失、破損の恐れがあります。



強制

ハードディスク内のデータは、必ず他のメディア（フロッピーディスク、MO ディスク等）にバックアップしてください。

とくに、修復、再現できない重要なデータは、オリジナルの更新前、更新後と、常に二重のバックアップを作成されることをおすすめします。次のような場合に、データが消失、破損する恐れがあります。

- ・ 誤った使い方をしたとき
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- ・ 故障、修理などのとき
- ・ パソコンの電源スイッチをOFFにした直後に、すぐに電源スイッチをONにしたとき
- ・ 天災による被害を受けたとき

上記の場合、またその他いかなる場合でも、データが消失、破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。



強制

本製品の取り付け、取り外しや、ソフトウェアをインストールするときなど、お使いのパソコン環境を少しでも変更するときは、変更前に必ずパソコン内（ハードディスク等）のデータをすべてMOディスク、フロッピーディスク等にバックアップしてください。

誤った使い方をしたり、故障などが発生してデータが消失、破損したときなど、バックアップがあれば被害を最小限に抑えることができます。

データが消失、破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。



禁止

次の場所には設置しないでください。感電、火災の原因となったり、製品やパソコンに悪影響を及ぼすことがあります。

- ・ 強い磁界や静電気が発生するところ
- ・ 直射日光が当たるところ
- ・ ほこりの多いところ
- ・ 温度、湿度がパソコンのマニュアルが定めた使用環境を超える、または結露するところ
- ・ 振動が発生するところ けが、故障、破損の原因となります。
- ・ 平らでないところ 転倒したり、落下して、けがや故障の原因となります。
- ・ 火気の周辺、または熱気のこもるところ 故障や変形の原因となります。
- ・ 漏電または漏水の危険があるところ 故障や感電の原因となります。

目次

1 確認しよう 7

特長	7
作業のながれ	7
パッケージの内容	8
接続時の注意	9
SCSI ケーブルとコネクタ	9
ターミネータ (終端抵抗)	10
SCSI-ID	10
システム全般	10
PC98-NX シリーズで使用する場合	12

2 使いかたを考えよう 13

ノーマルドライブとして使用する時のスイッチ設定 (出荷時設定) ..	13
デュアルドライブとして使用する時のスイッチ設定	13
使用目的と DSC の設定	14
デュアルモードとノーマルモードを切り替えるとき	16
Windows98/Windows95	16
WindowsNT4.0/3.51	17
Windows3.1、DOS	17
Macintosh	17

3 取り付けてみよう 18

取り付け方法	18
DSC だけを接続する場合	18
SCSI 機器が複数台ある場合	18
取り付けが終わったら	19
DSC-U13GTR をお使いの方へ	19

4 必ずフォーマットしよう (DOS/V 機、PC98-NX シリーズ) .. 20

フォーマット時の注意事項	20
OS による制限事項	20
Windows98/95 でのフォーマット (増設用として使用する場合)	21
Windows98/95 でのフォーマット (起動用として使用する場合)	22
手順の概要	22
Windows95 のバージョン確認	23
DSC の接続状態の確認	23

フォーマットの前に	24
FDISK の起動	24
領域の作成 (確保)	28
フォーマット	31
WindowsNT4.0/3.51 でのフォーマット	32
Windows3.1、DOS でのフォーマット	34
フォーマットの前に	34
フォーマット手順	34

5 必ずフォーマットしよう (PC-9821 シリーズ) 36

フォーマット時の注意事項	36
OS による制限事項	36
Windows98/95 でのフォーマット (増設用として使用する場合)	37
Windows98/95 でのフォーマット (起動用として使用する場合)	38
手順の概要	38
Windows95 のバージョン確認	39
DSC の接続状態の確認	39
フォーマットの前に	40
FDISK の起動	40
領域の作成 (確保)	43
フォーマット	44
WindowsNT4.0/3.51 でのフォーマット	45
Windows3.1、MS-DOS でのフォーマット	46
フォーマットの前に	46
フォーマット手順	47

A 付録 49

バックアップ	49
バックアップの必要性	49
バックアップ用のメディア	49
バックアップデータの復元 (リストア)	49
仕様	50
製品仕様	50
切替スイッチの設定	52

1

確認しよう

DSCを使用する前に知っておいていただきたいことを説明しています。

特長

本製品は、Dual Boot機能を搭載しています。Dual Boot機能の特長は次のとおりです。

1台のDSCを分割して2台のハードディスクとして使用できます。

本体背面のスイッチを切り替えるだけで2分割した一方のドライブだけをパソコンに認識させることができます。

出荷時設定は、DSC全体を2分割せずに1台のドライブとして使用する設定になっています。

1台のパソコンを複数のユーザで使用できます。ユーザによって使用するドライブを切り替えれば、1台のパソコンを複数のユーザで共有できます。使用するOSやデスクトップ環境などもカスタマイズできます。

Dual Boot(2つの異なるOSの起動)環境が簡単に作れます。

ハードディスクの2つの領域にOSをインストールすれば、スイッチを切り替えてパソコンを再起動するだけでOSを変更できます。

▲注意 SCSIハードディスクからOSを起動できるように設定されている必要があります。

安全なバックアップメディアとして使用できます。DSCの一方の領域にデータをバックアップし、その領域をパソコンに認識させないようにすることで、誤ってデータを削除してしまうおそれが無くなります。

作業のながれ

パソコン 周辺機器の順に電源スイッチをOFFにする

DSCをデュアルドライブとして使用するか、通常のハードディスクとして使用するか設定する【P13】

DSCのSCSI-IDを設定する【P10】

DSCをパソコンに接続する

周辺機器(DSCを含む) パソコンの順に電源スイッチをONにする

DSCをフォーマットする

本製品は出荷時には物理フォーマットだけが施された状態のため、使用する前に論理フォーマットする必要があります。

- ・DOS/V機、PC98-NXシリーズでのフォーマット【P20】
- ・PC-9821シリーズでのフォーマット【P36】

次のページへ続く

DSCをMacintoshに接続するときは、次の弊社製接続キット、またはSCSIインターフェースを別途ご購入ください。

・DCK-ADB(Macintosh用SCSIケーブル、ターミネータ、フォーマッタ)

・IFC-WSPA(SCSIインターフェースボード、ターミネータ、フォーマッタ)

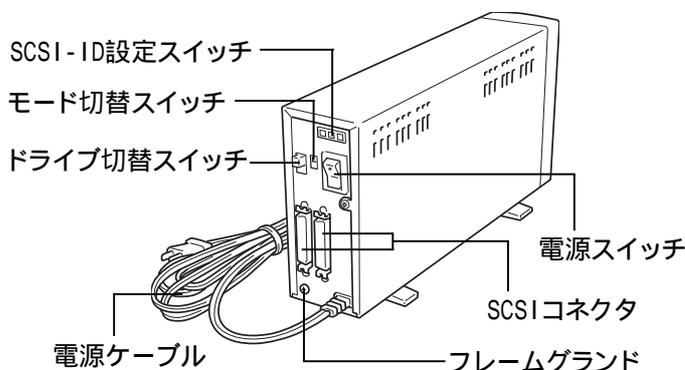
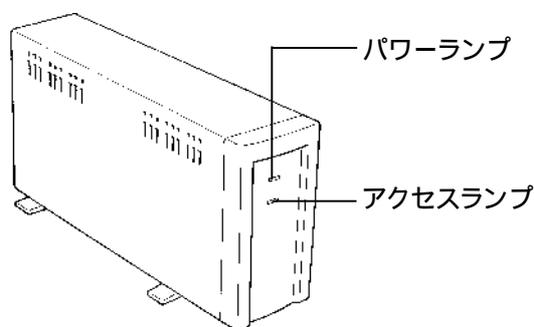
DSCをフォーマットするときは、DCK-ADBやIFC-WSPAに付属のフォーマッタ、もしくは市販のフォーマッタをお使いください。

パッケージの内容

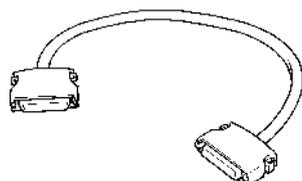
パッケージには、次の物が梱包されています。万一、不足している物がありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。なお、本体形状はイラストと異なることがあります。

メモ セット製品(ハードディスク + SCSIインターフェースのセット)でお買い求めの方へ
本書ではハードディスクのみのパッケージ内容を記載しています。SCSIインターフェースのパッケージ内容、使用方法などについては、SCSIインターフェースのマニュアルを参照してください。

DSC(本体) 1台



SCSIケーブル(40cm)
(D-subハーフピッチ50ピン凸) 1本



ハードディスクドライブユーティリティ
(CD-ROM) 1枚

便利なユーティリティ(Disk Formatter、DriveCopy、PartitionMagic)が収録されています。

Apple社製Macintoshでは使用できません。また、各ユーティリティごとに対応機種や対応OSが異なります。詳しくは別冊「付属CDの使いかた」を参照してください。

付属CDの使いかた 1冊

ユーザーズマニュアル(本書) 1冊

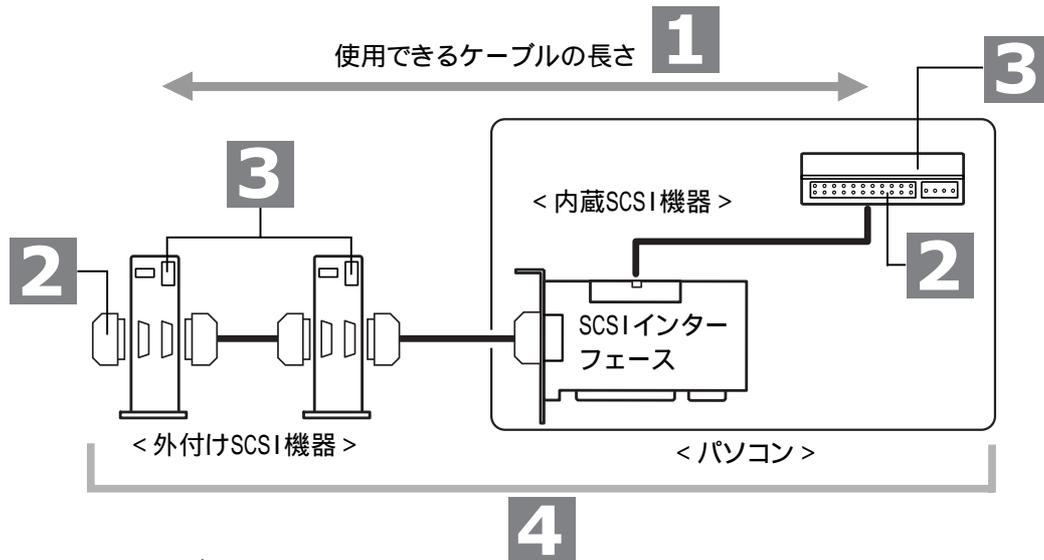
ユーザー登録はがき、保証書 1枚

ユーザー登録はがきは保証書を切り離した後、必要事項をご記入の上、必ず弊社までご返送ください。また、切り離した保証書は、大切に保管してください。

別紙で追加情報が同梱されているときは、必ず参照してください。

接続時の注意

DSCやSCSI機器を接続する時の注意事項を、次の図の1～4で説明しています。必ずお読みください。



1 SCSI ケーブルとコネクタ

DSCを接続するSCSIインターフェースがUltra SCSI対応かSCSI-2対応かによって、接続できるSCSI機器の台数と、接続に使用できるSCSIケーブルの長さの合計が異なります。

SCSIインターフェースの種類	接続台数	ケーブルの長さの合計(*1)
Ultra SCSIインターフェース(*2)	1～3台	3m以下
	4～7台	1.5m以下
SCSI-2インターフェース	7台まで	6m以下

- *1: ケーブルの長さの合計には、SCSI機器の内部に配線されている部分(10～20cm程度)も含まれます。
- *2: Ultra SCSI対応のSCSI機器を使用するときは、SCSI機器の台数が増えるほどSCSIケーブルの長さの合計を短くする必要があります。ケーブルの長さが1.5mを超えるときは、Ultra SCSIインターフェースの転送速度をSCSI-2相当(理論値10MB/sec)に変更すれば、ケーブルを6mまで使用できます。転送速度の変更方法は、SCSIインターフェースのマニュアルを参照してください。

SCSIケーブルは一般的なSCSI-2の標準に適合した物を使用してください。

SCSIケーブルとSCSI機器のコネクタ形状が合っているか確認してください。

付属のSCSIケーブルは両端ともD-subハーフピッチ50ピンです。パソコンやSCSIインターフェースのコネクタ形状によっては、別売の弊社製接続キットと組み合わせて接続する必要があります。



DSCおよび付属のSCSIケーブルのコネクタ形状は、こちらです。

接続に使用するSCSIケーブルの特性インピーダンス値を統一してください。特性インピーダンス値は、SCSIケーブルのパッケージやケーブル自体に印刷されています。弊社製SCSIケーブルの場合は、約90Ωに統一されています。

SCSIケーブルを接続する前に、コネクタのピンが折れたり曲がったりしていないか確認してください。

Macintoshに接続するときは、弊社製接続キットDCK-ADB、または弊社製SCSIインターフェースボードIFC-WSPAを別途ご購入ください。

2 ターミネータ（終端抵抗）

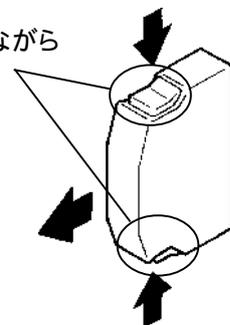
デジチェーン（*）の終端に接続するSCSI機器には、必ずターミネータを取り付けてください。ターミネータ機能を内蔵するSCSI機器を終端に接続した場合は、ターミネータ機能を有効にしてください。
内蔵SCSI機器の場合も、SCSIケーブルの終端（1台目用のコネクタ）に接続するSCSI機器は必ずターミネータ機能を有効にしてください。

*：複数のSCSI機器をケーブルで直列につないだ状態

SCSIケーブルやターミネータを取り外すときは、クランプ（2箇所）を押さえながら引き抜いてください。
SCSIケーブルやターミネータを取り付けるときは、カチッと音がするまでしっかり差し込んでください。

SCSI機器のコネクタ形状に合ったターミネータを用意してください。DSCのコネクタ形状はD-subハーフピッチ50ピンです。弊社製ターミネータDKC-TDや、弊社製SCSIインターフェースボード（IFC-NSPを除く）に付属のターミネータを使用してください。

ここを押さえながら
抜きます。



3 SCSI-ID

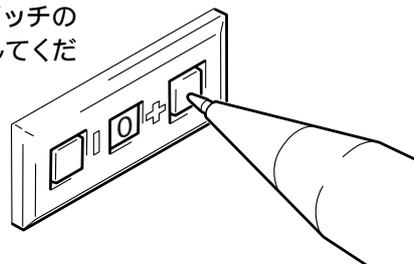
同じSCSI-IDを複数のSCSI機器に割り当てないでください。ただし、複数のSCSIインターフェースを併用しているときは、異なるSCSIバス間で同じSCSI-IDがあっても構いません。

DSCのSCSI-IDは出荷時に0に設定されています。

複数のSCSI機器と併用するときは、SCSI-IDが他のSCSI機器と重複しないように変更してください。

SCSI-IDは0～6の範囲で設定してください。7は通常SCSIインターフェースが使用します。0から順に1、2、3...と連続して設定することをおすすめします。

SCSI-ID設定スイッチをボールペンの先などで押して設定します。SCSI-ID設定スイッチの位置はP8を参照してください。



▲注意 芯が折れたり、砕けた芯の粉末が発生する鉛筆などの筆記具は使用しないでください。

4 システム全般

▲注意 パソコンおよびDSCは精密機器です。巻頭の「安全にお使いいただくために必ずお守りください」を必ず参照してください。

取り付け作業をするときは、必ずパソコン本体と周辺機器のマニュアルを参照してください。

取り付け作業を始める前に、必ずパソコンの電源スイッチをOFFにしてください。

大切なデータを守るため、パソコンと周辺機器の電源スイッチをOFFにする前にアプリケーションをすべて終了し、ハードディスクなどに記録されているデータを他のメディア（フロッピーディスクなど）に保存してください。

次のページへ続く

取り付け作業を始める前に、次の物を用意してください。

- 本製品および付属品
- パソコンと周辺機器のマニュアル
- Ultra SCSI/SCSI-2インターフェース
弊社製Ultra SCSI/SCSI-2インターフェースが必要です。
取り付け方法などは、Ultra SCSI/SCSI-2インターフェースのマニュアルを参照してください。
- ターミネータ (D-subハーフピッチ50ピン用)

複数のSCSI機器を接続するとき

システムの動作が不安定になる場合があります。その場合は、次の方法で回避できることがあります。

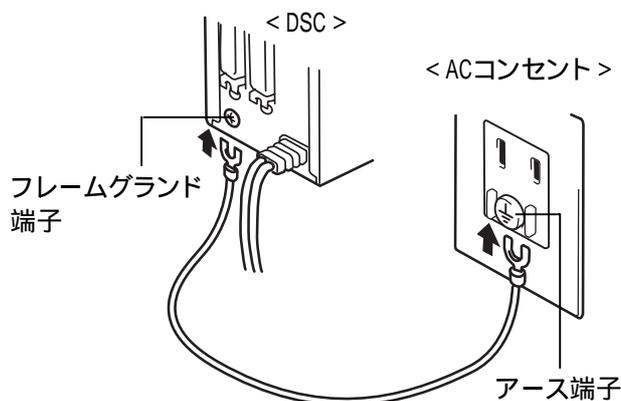
- Ultra SCSI対応機器 (DSCを含む) をデジチェーンの終端、またはその近くに接続する
- できるだけ短いSCSIケーブルでSCSI機器を接続する
- 接続しているSCSI機器の電源スイッチをすべてONにする

以上の作業を行っても回避できないときは、接続するSCSI機器の台数を減らしてください。

メモ Ultra SCSIインターフェースを使用すると、データ転送速度(理論値)がSCSIインターフェースの2倍になりますが、データをやり取りするタイミングが厳密になるため、複数のSCSI機器を接続した場合に動作が不安定になることがあります。

アースの接続について

- パソコンに接続するすべての機器(プリンタやSCSI機器など)に、アースを接続してください。一部の機器にだけ接続することは危険です。また、アースを接続しないで使用すると、漏電による故障や感電のおそれがあります。
- SCSIケーブルや電源ケーブルを接続する前にアースを接続してください。
- アース線はガス管や水道管には接続しないでください。火災や漏電のおそれがあります。



デュアルドライブとして使用していたDSCを1台のドライブとして使用するとき(または1台のドライブとして使用していたDSCをデュアルドライブとして使用するとき)は、物理フォーマット、またはドライブ管理情報の削除が必要です。データを保存したままでは切り替えられません。大切なデータは、DSC以外のメディアにコピーしておいてください。【P16】

PC98-NX シリーズで使用する場合

CyberTrio-NXがインストールされている機種()では、CyberTrio-NXをアドバンスモード以外のモードで使用していると、DSCを正しく設定できないことがあります。DSCを接続する前に必ずアドバンスモードに変更してください。

CyberTrio-NXは、Windows98/95インストールモデルに標準でインストールされています。CyberTrio-NXがインストールされていると、タスクバーにインジケータが表示されます。

メモ CyberTrio-NXのモードの確認方法
タスクバーに表示されているCyberTrio-NXのインジケータの色で確認できます。

赤	アドバンスモード	設定を変更する必要はありません。
黄	ベーシックモード	アドバンスモードに設定を変更してください。
緑	キッズモード / カスタムモード	アドバンスモードに設定を変更してください。

メモ CyberTrio-NXのモードの変更方法
再起動後もアドバンスモードになるように設定を変更します。

- 1 [スタート] - [プログラム(P)] - [CyberTrio-NX] - [Go To アドバンスモード]を選択します。アドバンスモードに切り替わります。
- 2 [スタート] - [プログラム(P)] - [CyberTrio-NX] - [CyberTrio-NX セットアップ]を選択します。
- 3 [CyberTrio-NXのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。[アドバンスモード]を選択して[OK]ボタンをクリックします。
詳しい手順はパソコン本体のマニュアルを参照してください。

以上でアドバンスモードに設定されました。

DSCの接続状態を確認した後は、アドバンスモード以外のモードも使用できます。任意のモードに変更してください。【P23、39】

NEC PC98-NXシリーズのスリープボタンは使用しないでください。

スリープボタンでのサスペンド/レジューム機能(消費電力を減らすための機能)を使用すると、システムが正常に動作しなくなることがあります。

サスペンド/レジューム機能によってシステムが正常に動作しなくなったときは、Windows98/95を再起動してください。

CyberTrio-NX

パソコンを使う人の利用するレベルに合わせて、Windowsの操作範囲やアクセスできるフォルダを限定するためのユーティリティです。詳しくはパソコン本体のマニュアルを参照してください。

2

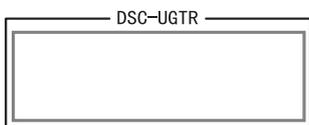
使いかたを考えよう

DSCをどのように使うかによって設定が異なります。DSCをパソコンに接続する前に、使用目的に合わせて設定してください。

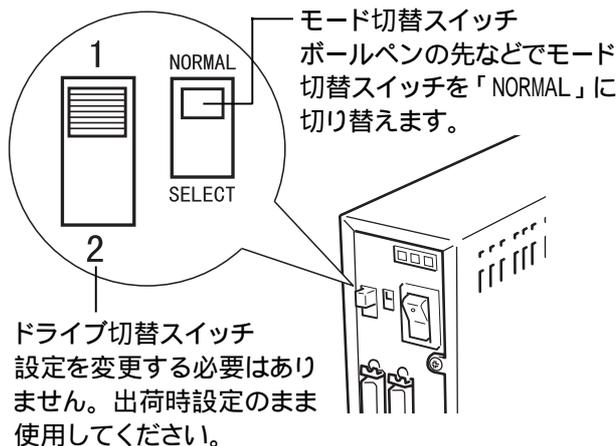
ノーマルドライブとして使用するときのスイッチ設定（出荷時設定）

DSCを通常のハードディスクと同じように1台のドライブとして使用するとき、右の図のように出荷時設定のままお使いください。

DSC全体を1台のドライブとして使用できます。



注意 デュアルドライブとして使用していたDSCを1台のドライブとして使用するとき、物理フォーマット、またはデータ管理情報の削除が必要です。【P16】

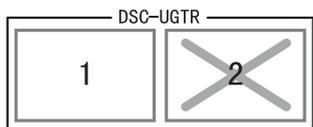


デュアルドライブとして使用するときのスイッチ設定

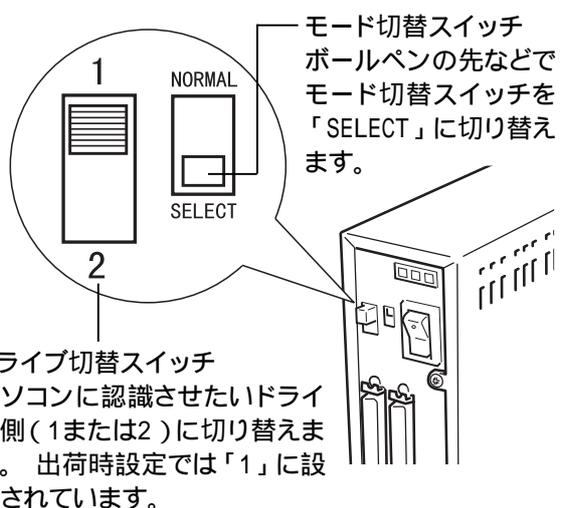
DSCを2台のドライブとして使用するとき、次のように設定してください。

DSCを2台のドライブとして使用できます。モード切替スイッチによって、どちらのドライブをパソコンに認識させるかを選択します。

ドライブ切替スイッチ1のとき



ドライブ切替スイッチ2のとき



- 注意**
- 1、2両方のドライブを同時にパソコンに認識させることはできません。
 - モード切替スイッチを切り替えるときは、物理フォーマット、またはドライブ管理情報の削除が必要です。ドライブ切替スイッチだけを切り替えるときは、物理フォーマットやドライブ管理情報を削除する必要はありません。【P16】

使用目的と DSC の設定

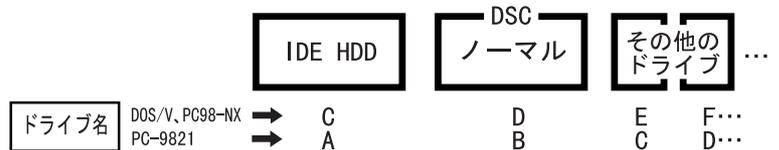
使用目的例

構成例

増設用として使用

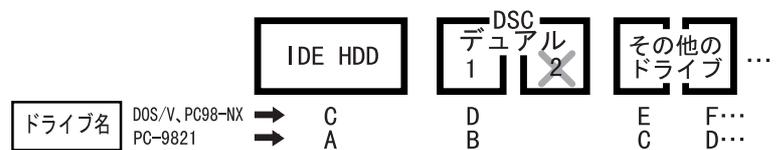
ノーマルドライブ

DSCを単一ドライブとして増設用に使う



デュアルドライブ

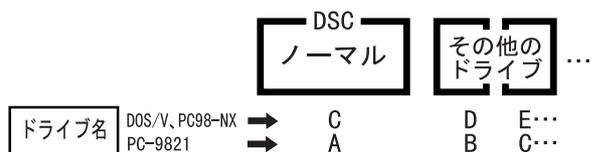
DSCをバックアップ用、増設用を切り替えて使う



起動用として使用

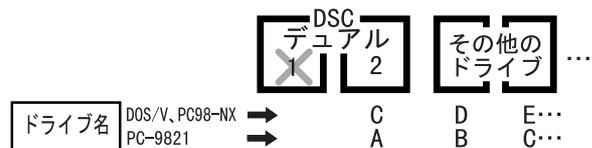
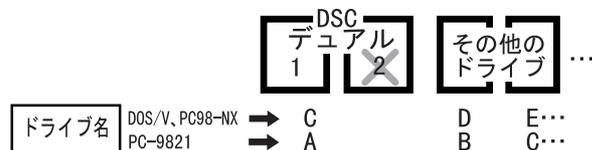
ノーマルドライブ

DSCを単一ドライブとして起動用に使う



デュアルドライブ

DSCを複数のユーザで使い分ける

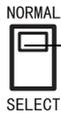


スイッチの設定

ドライブ切替スイッチ
(使用しません)

モード切替
スイッチ

ドライブ切替スイッチの設定は必要ありません。



ドライブ切替スイッチ
(使用しません)

モード切替
スイッチ

ドライブ切替スイッチの設定は必要ありません。



DSCに確保する領域(フォーマット時に指定)

DOS/V、PC98-NXシリーズ

PC-9821シリーズ

拡張MS-DOS領域
(論理ドライブ)

MS-DOS領域

Windows98/95をお使いの場合は、付属CD-ROMに収録されている「Disk Formatter」でフォーマットします。
WindowsNT4.0/3.51、Windows3.1/DOSをお使いの場合は、OS付属のフォーマッタでフォーマットします。

基本MS-DOS領域

MS-DOS領域

OS付属のフォーマッタでフォーマットします。

2

使いかたを考えよう

デュアルモードとノーマルモードを切り替えるとき

DSCの使用モード(デュアルドライブ ノーマルドライブ)を切り替えるときは、物理フォーマットまたは、ドライブ管理情報の削除が必要です。

OSに応じて次の操作を行ってください。

Windows98/Windows95

- 1 付属ユーティリティ「Disk Formatter」をインストールします。**
付属ユーティリティの概要については別冊「付属CDの使いかた」を参照してください。
- 2 MS-DOSプロンプトを起動します。**
- 3 C:¥DISKFORM¥DISKFORM /Qと入力します。**
下線部にはDisk Formatterをインストールしたドライブとフォルダ名を入力します。
- 4 Disk FormatterでDSCを物理フォーマットします。**
詳しい手順は、Disk Formatterのマニュアルを参照してください。

DSCを起動ドライブとして使用するとき

- 1 MS-DOSプロンプトでFDISKを実行し、基本MS-DOS領域を作成します。**
PC-9821シリーズの場合はMS-DOS領域を作成します。
- 2 作成した領域をフォーマットします。**

DSCを増設ドライブとして使用するとき

付属CD-ROMに収録されている「Disk Formatter」でフォーマットします。
付属CD-ROMに収録されているユーティリティの概要については、別冊「付属CD-ROMの使いかた」を参照してください。

次のページへ続く

WindowsNT4.0/3.51

ディスクアドミニストレータを起動してパーティションを確保し直し、フォーマットしてください。

- DOS/V機、PC98-NXシリーズを使用しているとき 【P32「WindowsNT4.0/3.51でのフォーマット」】
- PC-9821シリーズを使用しているとき 【P45「WindowsNT4.0/3.51でのフォーマット」】

Windows3.1、DOS

DOSを起動してパーティションを確保し直し、フォーマットしてください。

- DOS/V機、PC98-NXシリーズを使用しているとき 【P34「Windows3.1、DOSでのフォーマット」】
- PC-9821シリーズを使用しているとき 【P46「Windows3.1、MS-DOSでのフォーマット」】

DSC-U13GTRIは、Windows3.1およびDOSには対応していません。

Macintosh

別売の弊社製接続キットやSCSIインターフェースに付属のフォーマッタ、もしくは市販のフォーマッタでDSCをフォーマットしてください。

詳しい手順は、フォーマッタに付属のマニュアルを参照してください。

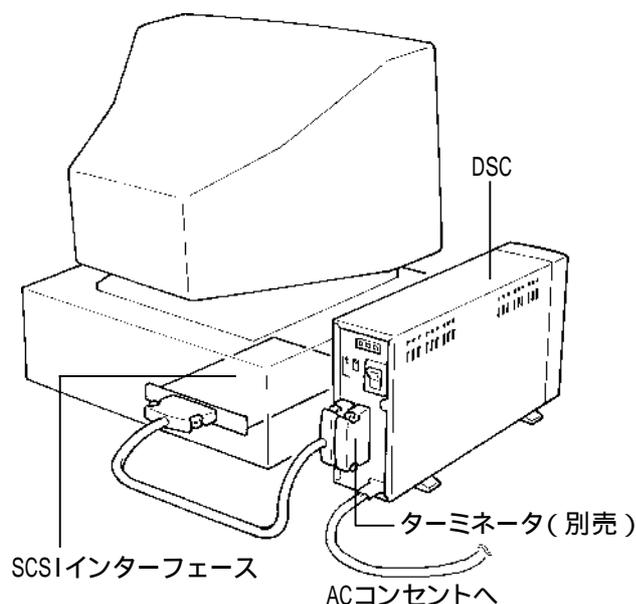
3

取り付けてみよう

取り付け方法

△注意 事前にパソコンと周辺機器(DSCを含む)の電源スイッチをOFFにし、アースを接続してください。
【P11「アースの接続について」】

DSC だけを接続する場合



事前にSCSIインターフェースをパソコンに取り付けておいてください。

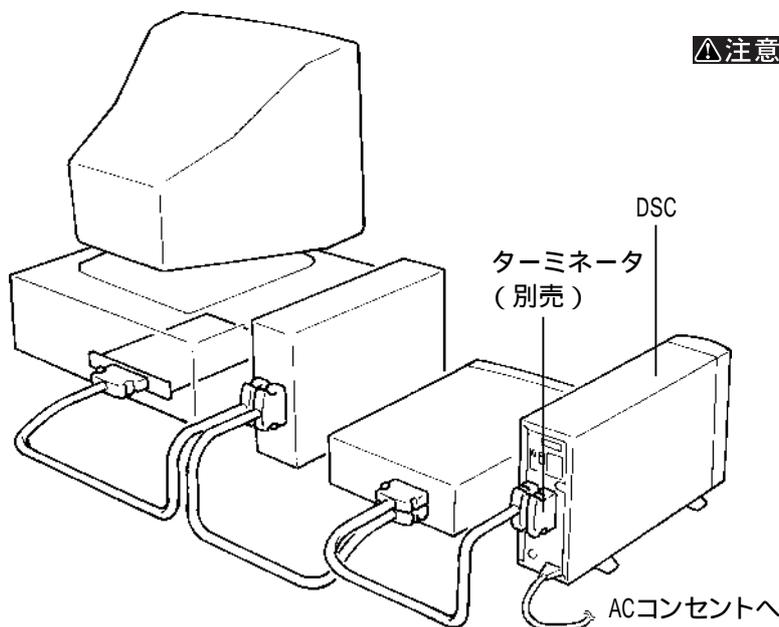
△注意 ・DSCに必ずターミネータ(別売)を取り付けてください。

弊社製SCSIインターフェース(IFC-NSPを除く)をお使いの場合はSCSIインターフェースに付属のターミネータをお使いください。

・電源ケーブルは最後にACコンセントに接続してください。

SCSI 機器が複数台ある場合

下の図は、DSCをデジチェーンの終端に接続した場合の例です。



△注意 ・デジチェーンの終端に接続したSCSI機器には、必ずターミネータ(別売)を取り付けてください。(ターミネータ内蔵SCSI機器の場合は、ターミネータ機能を有効にしてください。)

弊社製SCSIインターフェース(IFC-NSPを除く)をお使いの場合はSCSIインターフェースに付属のターミネータをお使いください。

・電源ケーブルは最後にACコンセントに接続してください。

取り付けが終わったら

DSCは、出荷時に物理フォーマットだけが施されています。そのため、使用する前にDSCを論理フォーマットする必要があります。使用しているパソコンとOSに応じたページを参照してフォーマットしてください。

DOS/V機、PC98-NXシリーズをお使いのとき

- Windows98/95【P21、22】
- WindowsNT4.0/3.51【P32】
- Windows3.1、DOS【P34】

PC-9821シリーズをお使いのとき

- Windows98/95【P37、38】
- WindowsNT4.0/3.51【P45】
- Windows3.1、MS-DOS【P46】

△注意 ノートパソコンでWindows98/95、Windows3.1、DOSを使用しているときは、SCSIカードに付属のフォーマッタでDSCをフォーマットしてください。OS付属のFDISK.EXEは使用できません。SCSIカードにフォーマッタが付属していないとき(*)は、SCSIカードのメーカーにお問い合わせください(弊社製対応SCSIカードには、すべてフォーマットプログラムが付属しています)。

*: Windows98/95では、付属CD-ROMに収録されている「Disk Formatter」でフォーマットできます。

Macintoshをお使いのときは、別売の弊社製接続キットやSCSIインターフェースに付属のフォーマッタ、もしくは市販のフォーマッタでDSCをフォーマットしてください。

詳しい手順は、フォーマッタに付属のマニュアルを参照してください。

DSCを増設ドライブとして使用するとき、OSのシステムファイルやアプリケーションをインストールする必要はありません。DSCをフォーマットしたら、そのまま使用できます。

DSCを起動ドライブとして使用するとき、DSCのフォーマット後に、OSをインストールする必要があります。OSのインストールソフトウェアを別途用意し、OSのマニュアルを参照してインストールしてください。

△注意 DOS/V機、PC98-NXシリーズを使用しているときは、DSC内に基本MS-DOS領域を作成してください。

△注意 ノートパソコンや、SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース(弊社製IFC-NSPなど)を使用している場合は、DSCなどの外付けハードディスクを起動ドライブにすることはできません。

DSC-U13GTR をお使いの方へ

8.4GBを超える容量のハードディスクに対応しているOSやSCSIインターフェースを使用してください。対応OSについては、P51を参照してください。対応SCSIインターフェースについては、DSC-U13GTRを購入した際に付属している別紙「DSC-U13GTRの対応SCSIインターフェース」を参照してください。

4

必ずフォーマットしよう(DOS/V機、PC98-NXシリーズ)

DOS/V 機およびPC98-NX シリーズでDSCを使用する場合のフォーマット(初期化)方法などを説明しています。

フォーマット時の注意事項

OS付属のフォーマットプログラムの使いかたは、OSのマニュアルで確認してください。

問題が発生したときやパソコンの環境設定を行うために、OSの起動ディスクを作成してください。作成方法は、各OSのマニュアルやヘルプを参照してください。

本書に記載している実行例は、あくまでも参考のためのものです。フォーマットするときは、必ず使用しているOSのマニュアルを参照してください。

フォーマットすると、ハードディスク内にあるデータは失われます。

フォーマット中は、絶対にパソコンの電源スイッチをOFFにしたり、リセットしないでください。

ディスクが破損するなどの問題が発生します。また、以後の動作についても保証できません。ご注意ください。

フォーマットする前に、ハードディスクの使用環境をもう一度よく確認してください。

ハードディスクのフォーマットはユーザーご自身の責任で行うものです。

誤って大切なデータやプログラムを削除しないように、フォーマットを実行するディスクが何台目のディスクか、また、ドライブ名は何か必ず確認しておいてください。

OSによる制限事項

記載のハードディスク容量は、1GB = 1000³byteで計算しています。OSやアプリケーションでは1GB = 1024³byteで計算されているため、表示される容量が異なります

OS	制限事項
Windows98、 Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C)	ファイルフォーマットの形式にFAT32を選択できるため、8.4GBを超える容量でも1つの領域(パーティション)として使えます。ただし、FDISK実行時にFAT16を選択した場合、1つの領域の最大容量は2.1GBとなります。 大容量ディスクのサポートを使用した場合【P25】
Windows95(4.00.950/4.00.950a)、 Windows3.1、DOS	・ファイルフォーマットの形式にFAT16を採用しているため、DSCを複数の領域(パーティション)に分割して使用します。1領域あたりの最大容量は2.1GBとなります。 ・1台のDSCで使用できる容量は、すべての領域(パーティション)を合わせて8.4GBまでです。(Disk Formatter使用時を除く)
WindowsNT4.0/3.51	OSのインストール時に起動ドライブの領域に割り当てられる容量は、最大4.3GBです。その他の領域は8.4GBを超える容量でも使えます。 NTFSを使用した場合【P33】

Windows95のバージョンは、「Windows95のバージョン確認」【P23】を参照して確認してください。

FAT16とFAT32の違いについてはP22を参照してください。

DSCの容量によって対応OSが異なります。【P50】

Windows98/95でのフォーマット(増設用として使用する場合)

Windows98/95でDSCを増設用として使用する場合は、付属CDに収録されている「Disk Formatter」を使用してフォーマットします。

- ⚠注意 • Disk FormatterはWindows98/95専用です。WindowsNT4.0/3.51、Windows3.1/DOSでは使用できません。
- Disk Formatterは拡張MS-DOS領域としてフォーマットします。Disk Formatterでフォーマットした領域からは、OSは起動できません。

次の手順でDisk Formatterをインストールします。

パソコンのCD-ROMドライブに付属CDをセットする

インストーラが起動したら、 ボタンをクリックする

画面の指示に従ってインストールする

以上でインストールは完了です。

[スタート]-[プログラム(P)]-[MELCO DISK FORMATTER]-[DISK FORMATTER]の順に選択すると、次の画面が表示されます。



フォーマットするドライブと空き領域を選択します。[ファイルシステム]、[サイズ]を設定し、[フォーマット(F)]ボタンをクリックします。

⚠注意 フォーマットするドライブを間違えないでください。

必要に応じて[ボリュームラベル]を入力します。

📄メモ 詳しいインストール手順は、別冊「付属CDの使いかた」を参照してください。

Windows98/95でのフォーマット（起動用として使用する場合）

Windows98/95でDSCを起動用として使用する場合は、OS付属のフォーマットプログラムを使用してフォーマットします。

DSCを起動用としてフォーマットする場合は、付属CDに収録されている「Disk Formatter」は使用できません。

- △注意**
- ・フォーマットするときは、必ずOSのマニュアルを参照してください。
 - ・トラブルシューティングやパソコンの環境設定を行うための、起動ディスクを作成してください。作成方法については、使用しているOSのマニュアルを参照してください。
 - ・SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース（ノート用PCカード、弊社製IFC-NSPなど）では、DSCなどの外付けハードディスクを起動ドライブとして使用できません。

手順の概要

1 Windows95を使用している場合は、バージョンを確認する【P23】

2 DSCが正しく接続されているか確認する【P23】

3 DOSプロンプトを起動し、FDISKコマンドを実行する【P24】

4 DSCを起動ドライブにするときは新しい基本MS-DOS領域を任意の容量で作成する【P28】

拡張MS-DOS領域を作成する【P29】

拡張MS-DOS領域内に論理MS-DOSドライブを作成する

パソコンを再起動する

5 作成した領域をフォーマットする【P31】

FAT16 と FAT32 の特徴

FAT16とFAT32には、それぞれ次のような長所と短所があります。

- | | | |
|-------|-----------|--|
| FAT16 | 長所 | Windows95(4.00.950/4.00.950 a)、WindowsNT、Windows3.1、DOSでも使用できる。 |
| | 短所 | ・1つの領域として確保できる容量は最大2047MBまで。
・確保する容量が大きくなるとクラスタサイズも大きくなり、ディスクの使用が非効率的になる。 |
| FAT32 | 長所 | ・クラスタサイズがFAT16より小さく、ディスクを効率的に使用できる。
・1つの領域として2047MBを超える容量を確保できる。 |
| | 短所 | ・Windows95(4.00.950/4.00.950a)、WindowsNT、Windows3.1、DOSなどでは使用できない。
・確保する領域が512MB以下のときは、FAT16としてフォーマットされる（FAT32としてはフォーマットできません）。 |

1 Windows95 のバージョン確認

フォーマット手順はWindows95のバージョンによって異なります。フォーマットをする前に、次の手順でWindows95のバージョンを確認してください。

1 [マイ コンピュータ]アイコンをマウスの右ボタンでクリックします。

2 表示されたメニューから[プロパティ(R)]を選択します。



[システム]に表示されるWindows95のバージョンを確認します。

バージョンは次の4種類です。

- 4.00.950
- 4.00.950a
- 4.00.950 B()
- 4.00.950 α()

FDISKの手順が一部異なります。
【P25】

注意 バージョンが4.00.950/4.00.950aの場合、OS付属のフォーマッタでは8.4GBを超える容量のハードディスクをフォーマットできません。8.4GBを超える容量は付属CD-ROMに収録されているDisk Formatterでフォーマットしてください。Disk Formatterでフォーマットした領域からはOSを起動できません。

2 DSC の接続状態の確認

DSC が正しく接続されているか確認します。

PC98-NXシリーズを使用しているときは、次の操作を行う前にCyberTrio-NX(PC98-NXシリーズ付属のユーティリティ)をアドバンスモードに設定してください。【P12「PC98-NXシリーズで使用する場合」】

1 デスクトップ画面の[マイ コンピュータ]アイコンをマウスの右ボタンでクリックし、表示されたメニューから[プロパティ(R)]を選択します。



新しくハードディスクが追加されていることを確認します。

下の表を参照して、[ディスクドライブ]に表示されるデバイス名を確認してください。追加されていないときはDSCが正しく接続されていません。もう一度DSCを接続し直してください。

表示されるデバイス名	モード切替スイッチ	ドライブ切替スイッチ
MELCO DSC-UE Series	NORMAL	1or2 (使用しません)
MELCO 1 DSC-UE Series	SELECT	1
MELCO 2 DSC-UE Series	SELECT	2

次のページへ続く

3 追加されたハードディスクのアイコンをダブルクリックします。

4 [設定]タブをクリックします。

5 [オプション]の[Int 13 エット]のチェックボックス()にチェックマーク(✓)が表示されていることを確認します。チェックマークが付いていないときは、[Int 13 エット]をクリックしてチェックマークを付け、パソコンを再起動してください。

通常はチェックマークはグレーで表示され、外せません。

メモ SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース(ノートパソコン用SCSIカード全般、弊社製IFC-NSPなど)にDSCを接続したときは、チェックマークは表示されていません。その場合は[Int13エット]をクリックしてチェックマークを付け、パソコンを再起動してください。

フォーマットの前に

誤って他のハードディスクをフォーマットしないように、事前に現在のドライブ構成を把握しておいてください。ドライブ構成は、デスクトップ上の[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックして開くダイアログボックスのドライブアイコンで知ることができます。

新しく接続したDSCはフォーマット後に認識されます。フォーマット前は[マイコンピュータ]ダイアログボックスには登録されていません。

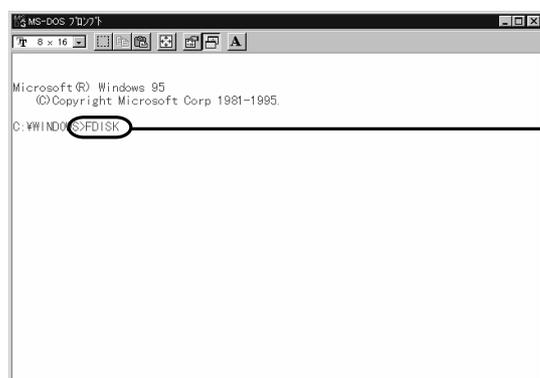
3 FDISK の起動

1 パソコンの電源スイッチをONにしてWindows98/95を起動します。

2 [スタート]-[プログラム(P)]-[MS-DOSプロンプト]の順に選択します。

MS-DOSプロンプトが起動します。

3

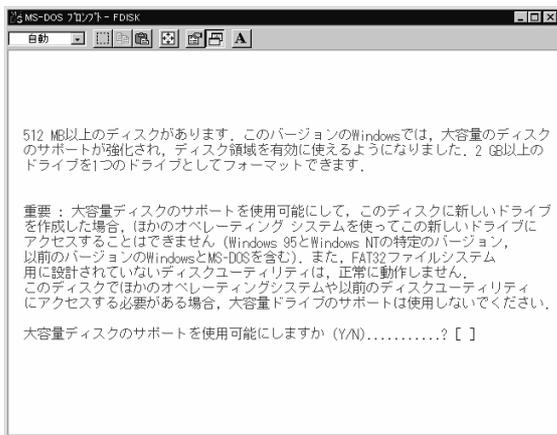


FDISKと入力し、Enterキーを押します。

次のページへ続く

Windows98、Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C)を使用しているとき

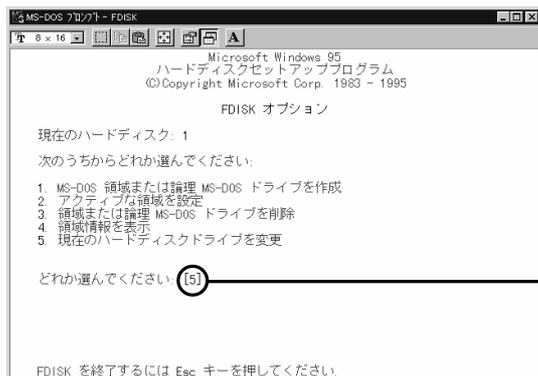
「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか」と表示されます。



1つの領域で確保する容量が2.1GB以上のときは、**[Y]** キーを押してから **[Enter]** キーを押します。2.1GB以下のときは、**[N]** キーを押してから **[Enter]** キーを押します。

注意 **[Y]** キーを押して大容量ハードディスクのサポートを使用可能にすると、ファイルフォーマットがFAT32になり、Windows98とWindows95(4.00.950 B/4.00.950 C)以外のOSでは使えなくなります。他のOSでも使いたいときや、FAT32に非対応のアプリケーションを使用するときは、**[N]** キーを押してください。

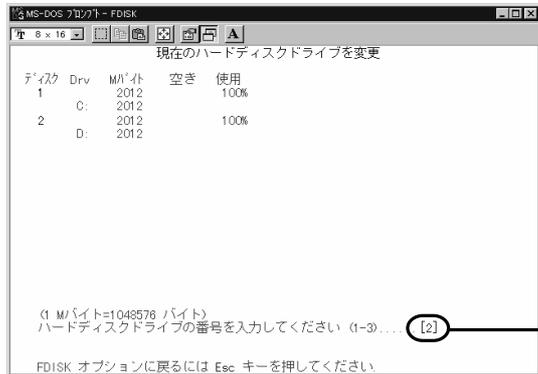
4



5を入力し、**[Enter]** キーを押します。

【5.現在のハードディスクドライブを変更】が表示されないときは、「DSCの接続状態の確認」【P23】を参照してDSCが正しく認識されているか確認してください。

5



DSCのディスク番号を入力して **[Enter]** キーを押します。本書の例ではDSCを2台目のドライブとして接続しているので、2を入力します。

注意 誤って他のハードディスクをフォーマットしないように注意してください。領域を削除するときは、続いて手順 6 以降の操作を行ってください。

メモ 出荷時のDSCには領域は設定されていないため、初めてDSCを使用するときは、手順 6 以降の操作を行う必要はありません。続いて「領域の作成(確保)」【P28】を行ってください。

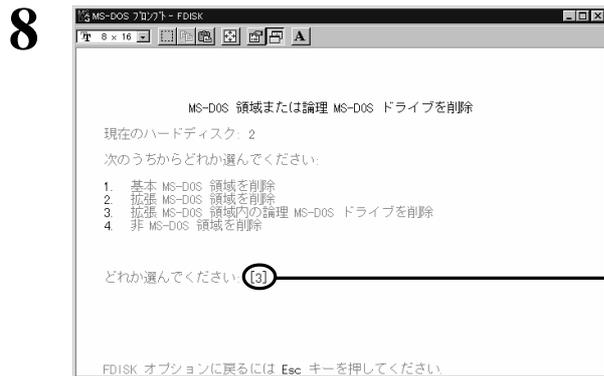
次のページへ続く

ここでは、拡張MS-DOS領域を削除する手順を説明します。

6 [4.領域情報を表示]を選択します。選択しているドライブの領域情報が表示されるので削除しても構わない領域であることを確認します。確認が終わったら、**[Esc]** キーを押します。

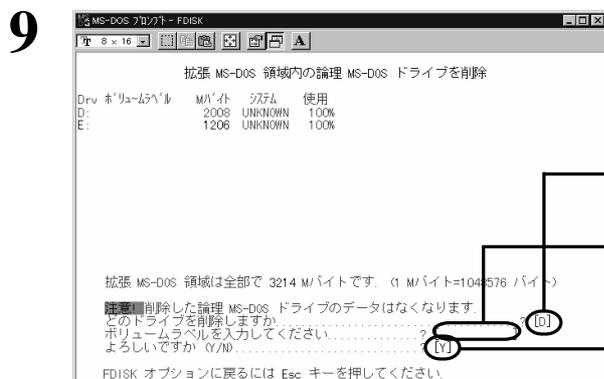
7 [3.領域または論理MS-DOSドライブを削除]を選択します。

基本MS-DOS領域を削除するときは、1.基本MS-DOS領域を削除]を選択し、表示されるメッセージに従って操作してください。



3を入力し、**[Enter]** キーを押します。

「削除する論理ドライブはありません」と表示されたときは、手順 12 以降の操作を行って拡張MS-DOS領域を削除してください。



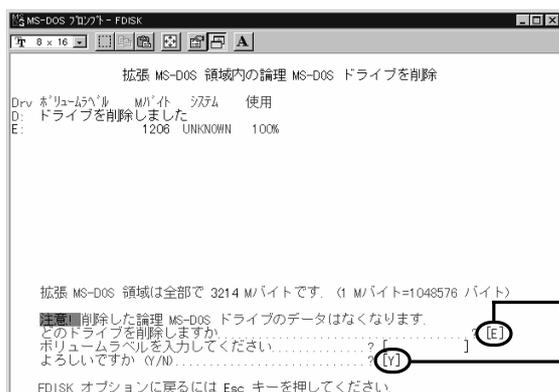
ドライブ名を入力し、**[Enter]** キーを押します。

ボリュームラベルがつけられているときはボリュームラベルを入力します。

Yを入力し、**[Enter]** キーを押します。

ドライブが削除されます。

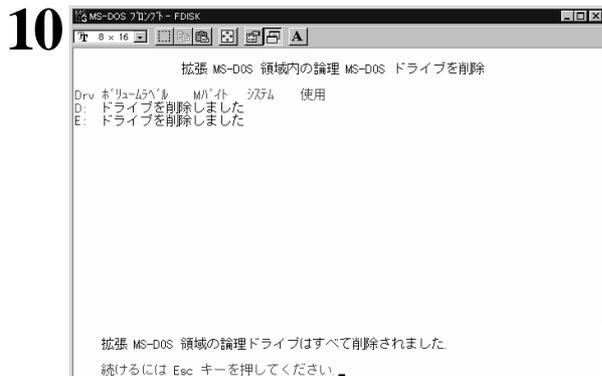
複数の論理MS-DOSドライブがあるとき



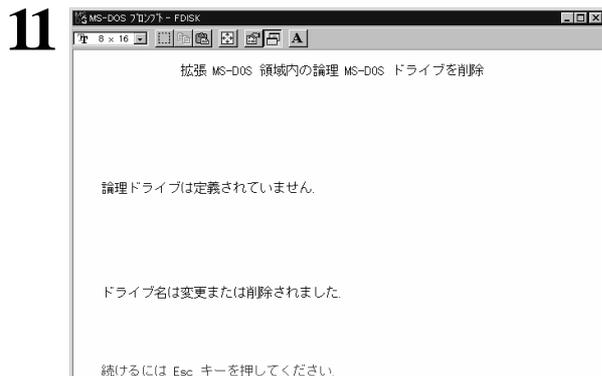
ドライブ名を入力し、**[Enter]** キーを押します。

Yを入力し、**[Enter]** キーを押します。

次のページへ続く



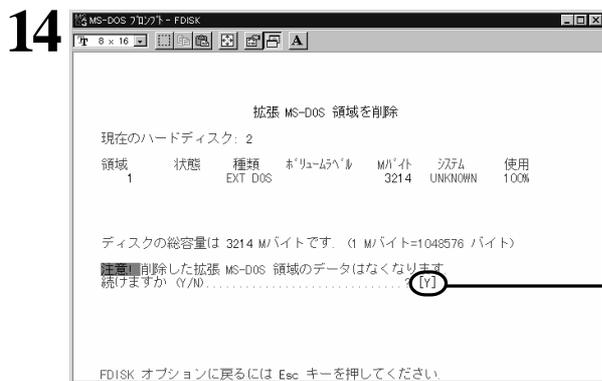
Esc キーを押します。



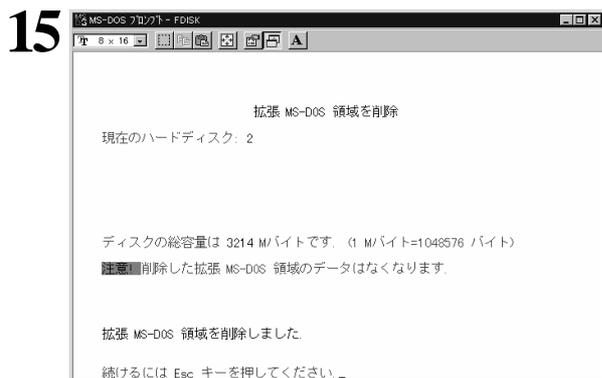
Esc キーを押します。

12 [3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除] を選択します。

13 [2. 拡張 MS-DOS 領域を削除] を選択します。



Yを入力し、**Enter** キーを押します。



Esc キーを押します。

次のページへ続く

以上で領域の削除は完了です。

▼次へ 任意の容量で領域を作成します。【下記「領域の作成(確保)」】

4 領域の作成（確保）

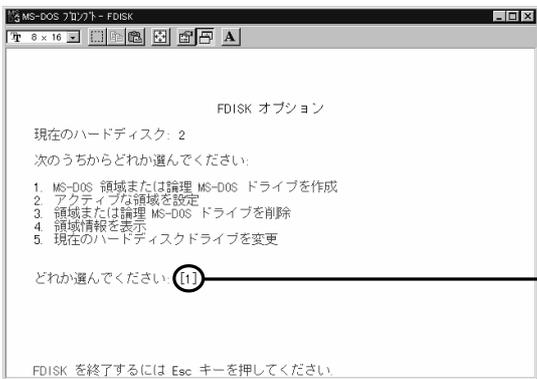
基本 MS-DOS 領域を作成する

DSCを起動ドライブにするときは、必ず基本MS-DOS領域を作成してください。

DSCを増設ドライブとして使用するとき、付属CDに収録されている「Disk Formatter」でフォーマットしてください。基本MS-DOS領域を作成する必要はありません。【P21】

注意 基本MS-DOS領域から優先してドライブ名が割り当てられるため、起動ドライブ以外のハードディスクに基本MS-DOS領域を作成すると、今まで使用していたハードディスクのドライブ名が変更されることがあります。

1



MS-DOS フォーマット - FDISK

FDISK オプション

現在のハードディスク: 2

次のうちからどれか選んでください:

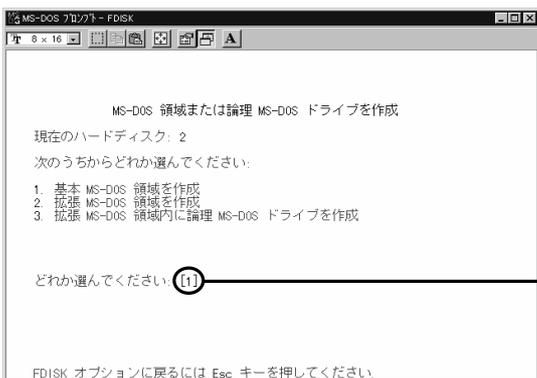
1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください (1)

FDISK を終了するには Esc キーを押してください

1を入力し、**Enter** キーを押します。

2



MS-DOS フォーマット - FDISK

MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成

現在のハードディスク: 2

次のうちからどれか選んでください:

1. 基本 MS-DOS 領域を作成
2. 拡張 MS-DOS 領域を作成
3. 拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

どれか選んでください (1)

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください

1を入力し、**Enter** キーを押します。

3



MS-DOS フォーマット - FDISK

基本 MS-DOS 領域を作成

現在のハードディスク: 2

基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますが
Y/N?

(N)

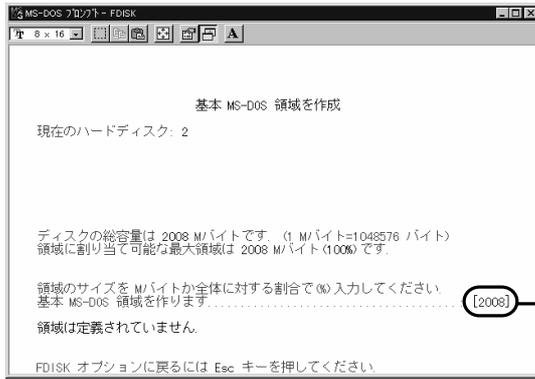
FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください

Nを入力し、**Enter** キーを押します。

最大サイズを割り当てるときは、Yを入力して
手順 5 へ進んでください。

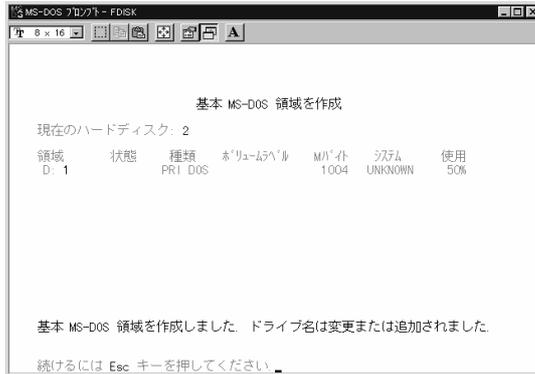
次のページへ続く

4



作成したい基本MS-DOS領域のサイズをMB数または%で入力し、**[Enter]** キーを押します。基本MS-DOS領域が作成されます。

5

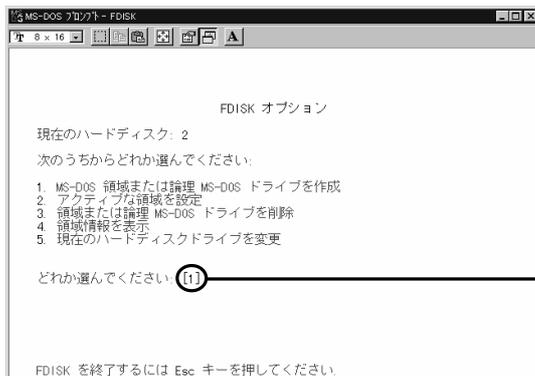


[Esc] キーを押します。

拡張MS-DOS領域の作成

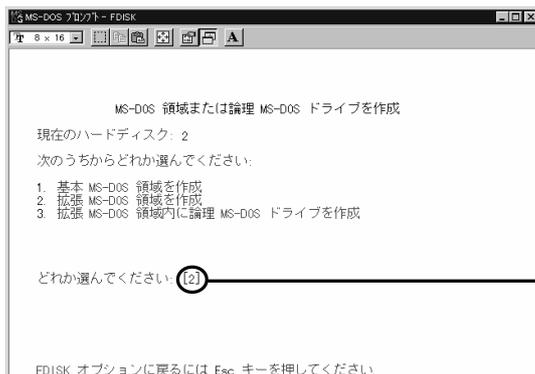
FDISKでは基本MS-DOS領域を作成した後に、残りの領域を拡張MS-DOS領域として作成できます。DSCを起動ドライブとして1ドライブだけで使用する場合は、拡張MS-DOS領域を作成する必要はありません。

1



1を入力し、**[Enter]** キーを押します。

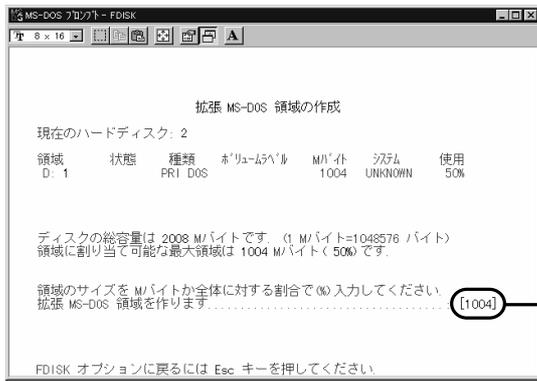
2



2を入力し、**[Enter]** キーを押します。

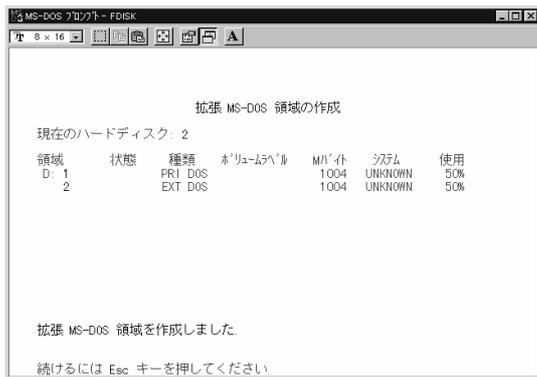
次のページへ続く

3



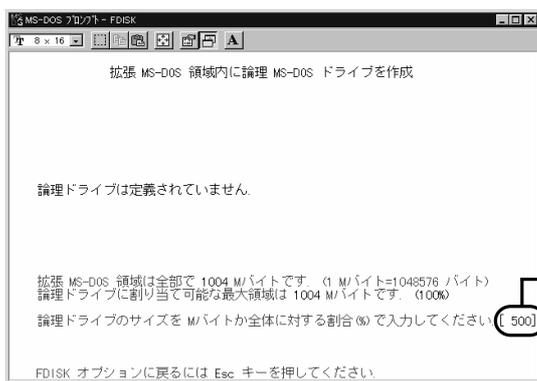
作成したい拡張MS-DOS領域のサイズをMB数または%で入力し、**[Enter]** キーを押します。拡張MS-DOS領域が作成されます。

4



[Esc] キーを押します。

5



作成したい論理MS-DOS領域のサイズをMB数または%で入力し、**[Enter]** キーを押します。論理MS-DOS領域が作成されます。

6 作成する領域の数だけ手順 5 を繰り返します。

7 すべての領域を作成したら、**[Esc]** キーを押します。FDISK画面に戻ったら、再度 **[Esc]** キーを押してFDISKを終了させます。

8 MS-DOSプロンプトを終了して、**[スタート]**-**[Windowsの終了(U)]**を選択します。**[コンピュータを再起動する(R)]**を選択して**[はい(Y)]**ボタンをクリックします。

作成した領域は、パソコンの再起動後にドライブとして認識されます。

次へ 認識されたドライブをフォーマットします。
【P31「フォーマット」】



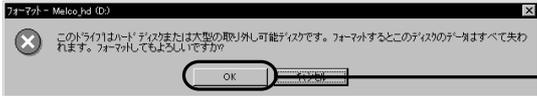
作成した領域の数だけ新しいドライブが追加されます。

5 フォーマット

1 [マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックし、フォーマットしたいドライブをクリックします。

2 [ファイル(F)]-[フォーマット(M)]を選択します。

3  **1 選択** [フォーマットの種類] [オプション]で実行したいフォーマットのパラメータを選択し、[スタート(S)]ボタンをクリックします。
2 クリック

4  **1 クリック** フォーマットしてもよければ [OK] ボタンをクリックします。

5 実行中は進行状況がグラフ表示されます。終了すると [フォーマット] ダイアログボックスに戻ります。[閉じる(C)]ボタンをクリックします。

以上でフォーマットは終了です。

DSCを起動用ハードディスクとして使用するとき、DSCにOSをインストールしてください。OSのインストール手順は、OSのマニュアルを参照してください。

WindowsNT4.0/3.51 でのフォーマット

WindowsNT4.0/3.51を使用しているときのフォーマット手順を説明します。

△注意 フォーマットするときは、必ずOSのマニュアルを参照してください。

1 WindowsNT4.0/3.51を起動します。

2 [スタート]-[プログラム(P)]-[管理ツール(共通)]-[ディスクアドミニストレータ]を選択します。

WindowsNT3.51の場合は、[管理ツール]グループの[ディスクアドミニストレータ]をダブルクリックしてください。

△注意 表示されたドライブ構成を把握してから作業してください。誤って他のハードディスクをフォーマットしないように注意してください。

DSCを新たに増設した場合

「システム構成を更新します。」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。

3 [ディスクアドミニストレータ]が起動します。DSCのドライブをクリックします。

4 パーティションを作成します。

一部のSCSIカードでは、複数の領域を確保できない場合があります。その場合は、[拡張パーティションの作成]を選択してください。

プライマリパーティションを作成する場合

DSCを起動ドライブとして使用するときは、必ずプライマリパーティションを作成してください。DSCを増設ドライブとして使用するときは、拡張パーティションだけを作成してください。

△注意 プライマリパーティションから優先してドライブ名が割り当てられるため、起動ドライブ以外のハードディスクにプライマリパーティションを作成すると、今まで使用していたハードディスクのドライブ名が変更されることがあります。

1 [パーティション(P)]-[作成(C)]を選択します。

2 任意のパーティションサイズを入力して[OK]ボタンをクリックします。

拡張パーティションを作成する場合

DSCを起動ドライブとして1ドライブだけで使用する場合は、拡張パーティションを作成する必要はありません。

1 [パーティション(P)]-[拡張パーティションの作成(E)]を選択します。

2 パーティションのサイズを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

3 作成された空き領域を選択し、[パーティション(P)]-[作成(C)]を選択します。

4 任意のパーティションサイズを入力して[OK]ボタンをクリックします。

次のページへ続く

5 メニューバーから[パーティション(P)]-[今すぐ変更を反映(O)]を選択します。

WindowsNT3.51の場合は[パーティション(P)]-[直ちに変更を反映(O)]を選択してください。

6 「ディスク構成を変更しました。変更結果を保存しますか?」というメッセージが表示されたら[はい(Y)]ボタンをクリックします。

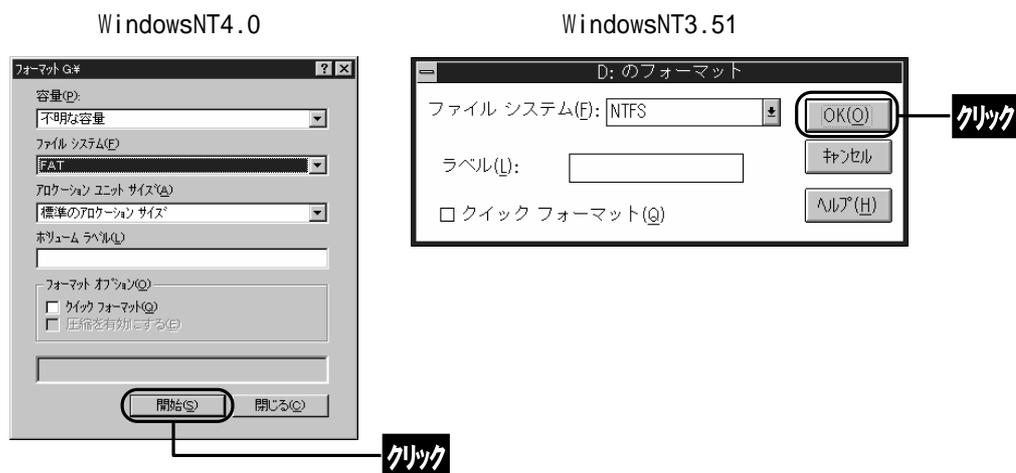
7 「ディスクは正常に更新されました。」というメッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

8 フォーマットするパーティションを選択した後、メニューバーから[ツール(T)]-[フォーマット(F)]を選択します。

9 各項目を設定し、[開始(S)]ボタン(WindowsNT3.51の場合は[OK]ボタン)をクリックします。

WindowsNT4.0/3.51だけでDSCを使用するときは、[NTFS]を選択してください。

WindowsNT4.0/3.51以外のOSにも認識させたいときは、[FAT]を選択してください。



10 「フォーマットが完了しました。」というメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。

WindowsNT3.51の場合は[フォーマット完了]ダイアログボックスが表示されます。

以上でWindowsNT4.0/3.51でのフォーマットは終了です。

正常にフォーマットされると、DSCがドライブとして認識されます。

- WindowsNT4.0の場合 作成した領域が、[マイコンピュータ]に新しいドライブとして追加されています。
- WindowsNT3.51の場合 作成した領域が、[ファイルマネージャ]に新しいドライブとして追加されています。

Windows3.1、DOSでのフォーマット

Windows3.1、DOSに付属のフォーマットプログラムを使用したフォーマット手順の概略を説明します。

DSC-U13GTRIは、Windows3.1、DOSには対応していません。

△注意 フォーマットする際は必ずOSのマニュアルを参照してください。

フォーマットの前に

誤って他のハードディスクをフォーマットしないように、次の方法で事前に現在のドライブ構成を把握しておいてください。

- Windows3.1 [ファイルマネージャ]で表示されているドライブアイコンで知ることができます。
- DOS DIRコマンドでアクセス可能なドライブから知ることができます

新しく接続したDSCはフォーマット後に認識されます。フォーマット前はDSCは認識されていません。

フォーマット手順

- 1 パソコンの電源スイッチをONにし、DOSを起動します。
DOSのプロンプトが表示されます。
- 2 FDISK と入力します。
- 3 [5 現在のハードディスクドライブを変更]を選択し、DSCのディスク番号を入力します。
例) DSCを2台目のドライブとして接続しているときは、ディスク番号を2に変更します。
△注意 誤って他のハードディスクをフォーマットしないよう注意してください。
- 4 [1 MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成]を選択します。
- 5 目的に応じて基本MS-DOS領域または拡張MS-DOS領域を作成します。

基本MS-DOS領域を作成する場合

DSCを起動ドライブにするときは、必ず基本MS-DOS領域を作成してください。

DSCを増設ドライブとして使用するときは拡張MS-DOS領域だけを作成してください。基本MS-DOS領域を作成する必要はありません。【P35】

△注意 基本MS-DOS領域から優先してドライブ名が割り当てられるため、起動ドライブ以外のハードディスクに基本MS-DOS領域を作成すると、今まで使用していたハードディスクのドライブ名が変更されることがあります。

- 1 [1 基本MS-DOS領域を作成]を選択します。
- 2 「基本MS-DOS領域に使用できる最大サイズを割り当てますか」というメッセージが表示されます。
 キーを押して キーを押します。
- 3 「基本MS-DOS領域を作成しました。」というメッセージが表示されます。 キーを押します。
FDISKの初期画面に戻ります。
- 4 再度 キーを押してFDISKを終了します。

次のページへ続く

拡張MS-DOS領域を作成する場合

DSCを起動ドライブとして1ドライブだけで使用する場合は、拡張MS-DOS領域を作成する必要はありません。

- 1 [2 拡張MS-DOS領域を作成] を選択します。
- 2 拡張MS-DOS領域に割り当て可能な容量がMB数で表示されます。 キーを押します。
- 3 「拡張MS-DOS領域を作成しました」というメッセージが表示されます。 キーを押します。
- 4 [拡張MS-DOS領域内に論理MS-DOSドライブを作成] 画面が表示されます。
論理MS-DOSドライブの容量を入力して キーを押します。
拡張MS-DOS領域の空き容量がなくなるまで論理MS-DOSドライブを作成します。
- 5 論理MS-DOSドライブの作成が終了したらキーを押してFDISKを終了します。

6 画面の指示に従ってパソコンを再起動します。

7 DOSを起動し、FORMAT D: と入力します。

下線部には、DSCに割り当てられたドライブ名を入力します。本書では例としてドライブ名「D」を記載しています。

▲注意 誤って他のハードディスクをフォーマットしないように注意してください。

8 「注意! ドライブD:のハードディスクのデータはすべてなくなります。フォーマットしますか(Y/N)?」というメッセージが表示されます。フォーマットするときは、 キーを押してから キーを押します。

9 フォーマットが終了すると、ボリュームラベルの入力を要求するメッセージが表示されます。任意のボリュームラベルを入力します。

以上でDSCのフォーマットは終了です。

正常にフォーマットされると、DSCがドライブとして認識されます。

- Windows3.1 作成した領域が、[ファイルマネージャ]に新しいドライブとして追加されています。
- DOS DIRコマンドで作成した領域(ドライブ)の情報を確認できるようになります。

5

必ずフォーマットしよう(PC-9821シリーズ)

PC-9821シリーズで使用する場合のフォーマット(初期化)方法などを説明しています。

フォーマット時の注意事項

OS付属のフォーマットプログラムの使いかたは、OSのマニュアルで確認してください。

問題が発生したときやパソコンの環境設定を行うために、OSの起動ディスクを作成してください。作成方法は、各OSのマニュアルやヘルプを参照してください。

本書に記載している実行例は、あくまでも参考のためのものです。フォーマットするときは、必ず使用しているOSのマニュアルを参照してください。

フォーマットすると、ハードディスク内にあるデータは失われます。

フォーマット中は、絶対にパソコンの電源スイッチをOFFにしたり、リセットしないでください。

ディスクが破損するなどの問題が発生します。また、以後の動作についても保証できません。ご注意ください。

フォーマットする前に、ハードディスクの使用環境をもう一度よく確認してください。

ハードディスクのフォーマットはユーザーご自身の責任で行うものです。

誤って大切なデータやプログラムを削除しないように、フォーマットを実行するディスクが何台目のディスクか、また、ドライブ名は何か必ず確認しておいてください。

OSによる制限事項

記載のハードディスク容量は、1GB = 1000³byteで計算しています。OSやアプリケーションでは1GB = 1024³byteで計算されているため、表示される容量が異なります。

OS	制限事項
Windows98、 Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C)	ファイルフォーマットの形式にFAT32を選択できるため、8.4GBを超える容量でも1つの領域(パーティション)として使えます。ただし、FDISK実行時にFAT16を選択した場合、1つの領域の最大容量は2.1GBとなります。 大容量ディスクのサポートを使用した場合【P41】
Windows95(4.00.950/4.00.950a)、 Windows3.1、DOS	・ファイルフォーマットの形式にFAT16を採用しているため、DSCを複数の領域(パーティション)に分割して使用します。1領域あたりの最大容量は2.1GBとなります。 ・1台のDSCで使用できる容量は、すべての領域(パーティション)を合わせて8.4GBまでです。
WindowsNT4.0/3.51	OSのインストール時に起動ドライブの領域に割り当てられる容量は、最大4.3GBです。その他の領域は8.4GBを超える容量でも使えます。 NTFSを使用した場合【P46】

Windows95のバージョンは、「Windows95のバージョン確認」【P39】を参照して確認してください。

FAT16とFAT32の違いについてはP38を参照してください。

DSCの容量によって対応OSが異なります。【P50】

Windows98/95でのフォーマット(増設用として使用する場合)

Windows98/95でDSCを増設用として使用する場合は、付属CDに収録されている「Disk Formatter」を使用してフォーマットします。

- ⚠注意 • Disk FormatterはWindows98/95専用です。WindowsNT4.0/3.51、Windows3.1/DOSでは使用できません。
- Disk Formatterでフォーマットした領域は「ACTIVE-BOOT不可」となります。Disk Formatterでフォーマットした領域からOSを起動するには、FDISKを実行して領域の状態を「ACTIVE-BOOT可」に変更する必要があります。
- Windows95を使用している場合、SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース(ノート用PCカード、弊社製IFC-NSPなど)では、8.4GBを超える容量を使用できません。

次の手順でDisk Formatterをインストールします。

パソコンのCD-ROMドライブに付属CDをセットする

インストーラが起動したら、 ボタンをクリックする

画面の指示に従ってインストールする

以上でインストールは完了です。

[スタート]-[プログラム(P)]-[MELCO DISK FORMATTER]-[DISK FORMATTER]の順に選択すると、次の画面が表示されます。



フォーマットするドライブと空き領域を選択します。[ファイルシステム]、[サイズ]を設定し、[フォーマット(F)]ボタンをクリックします。

⚠注意 フォーマットするドライブを間違えないでください。

必要に応じて[ボリュームラベル]を入力します。

❏メモ 詳しいインストール手順は、別冊「付属CDの使いかた」を参照してください。

Windows98/95でのフォーマット（起動用として使用する場合）

Windows98/95でDSCを起動用として使用する場合は、OS付属のフォーマットプログラムを使用してフォーマットします。

DSCを起動用としてフォーマットする場合は、付属CDに収録されている「Disk Formatter」は使用できません。

- △注意**
- ・フォーマットするときは、必ずOSのマニュアルを参照してください。
 - ・トラブルシューティングやパソコンの環境設定を行うための、起動ディスクを作成してください。作成方法については、使用しているOSのマニュアルを参照してください。
 - ・OS付属のフォーマッタでは、8.4GBを超える容量のハードディスクをフォーマットできません。8.4GBを超える容量は付属のCD-ROMに収録されているDisk Formatterでフォーマットしてください。【P37】
 - ・SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース（ノート用PCカード、弊社製IFC-NSPなど）では、DSCなどの外付けハードディスクを起動ドライブとして使用できません

手順の概要

1 Windows95を使用している場合は、バージョンを確認する【P39】

2 DSCが正しく接続されているか確認する【P39】

3 MS-DOSプロンプトを起動し、FDISKコマンドを実行する【P40】

4 新しいIMS-DOS領域を任意の容量で作成する【P43】

パソコンを再起動する

5 作成した領域をフォーマットする【P44】

FAT16 と FAT32 の特徴

FAT16とFAT32には、それぞれ次のような長所と短所があります。

FAT16

長所 Windows95(4.00.950/4.00.950 a)、WindowsNT、Windows3.1、DOSでも使用できる。

短所 ・1つの領域として確保できる容量は最大2047MBまで。
・確保する容量が大きくなるとクラスタサイズも大きくなり、ディスクの使用が非効率的になる。

FAT32

長所 ・クラスタサイズがFAT16よりも小さく、ディスクを効率的に使用できる。

・1つの領域として2047MBを超えるの容量を確保できる。

短所 ・Windows95(4.00.950/4.00.950a)、WindowsNT、Windows3.1、DOSなどでは使用できない。
・確保する領域が512MB以下のときは、FAT16としてフォーマットされる（FAT32としてはフォーマットできません）。

1 Windows95 のバージョン確認

フォーマット手順はWindows95のバージョンによって異なります。フォーマットをする前に、次の手順でWindows95のバージョンを確認してください。

- 1 [マイ コンピュータ]アイコンをマウスの右ボタンでクリックします。
- 2 表示されたメニューから[プロパティ(R)]を選択します。



[システム]に表示されるWindows95のバージョンを確認します。

バージョンは次の4種類です。

- 4.00.950
- 4.00.950a
- 4.00.950 B ()
- 4.00.950 α ()

FDISKの手順が一部異なります。

【P41】

注意 DSC-U13GTRは、Windows95(4.00.950/4.00.950a)には対応していません。

2 DSC の接続状態の確認

DSC が正しく接続されているか確認します。

PC98-NXシリーズを使用しているときは、次の操作を行う前にCyberTrio-NX(PC98-NXシリーズ付属のユーティリティ)をアドバンスモードに設定してください。【P12「PC98-NXシリーズで使用する場合」】

- 1 デスクトップ画面の[マイ コンピュータ]アイコンをマウスの右ボタンでクリックし、表示されたメニューから[プロパティ(R)]を選択します。



新しくハードディスクが追加されていることを確認します。

下の表を参照して、[ディスクドライブ]に表示されるデバイス名を確認してください。

追加されていないときはDSCが正しく接続されていません。もう一度DSCを接続し直してください。

表示されるデバイス名	モード切替スイッチ	ドライブ切替スイッチ
MELCO DSC-UE Series	NORMAL	1or2 (使用しません)
MELCO 1 DSC-UE Series	SELECT	1
MELCO 2 DSC-UE Series	SELECT	2

次のページへ続く

3 追加されたハードディスクのアイコンをダブルクリックします。

4 [設定]タブをクリックします。

5 [オプション]の[Int 13 エット]のチェックボックス()にチェックマーク(✓)が表示されていることを確認します。チェックマークが付いていないときは、[Int 13 エット]をクリックしてチェックマークを付け、パソコンを再起動してください。
通常はチェックマークはグレーで表示され、外せません。

 **メモ** SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース(ノートパソコン用SCSIカード全般、弊社製IFC-NSPなど)にDSCを接続したときは、チェックマークは表示されていません。その場合は[Int13エット]をクリックしてチェックマークを付け、パソコンを再起動してください。

フォーマットの前に

誤って他のハードディスクをフォーマットしないように、事前に現在のドライブ構成を把握しておいてください。ドライブ構成は、デスクトップ上の[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックして開くダイアログボックスのドライブアイコンで知ることができます。

新しく接続したDSCはフォーマット後に認識されます。フォーマット前は[マイコンピュータ]ダイアログボックスには登録されていません。

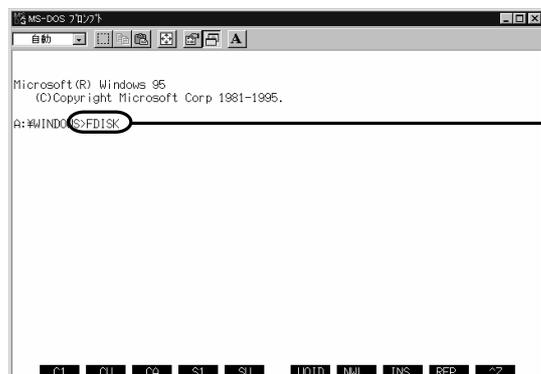
3 FDISK の起動

1 パソコンの電源スイッチをONにしてWindows98/95を起動します。

2 [スタート]-[プログラム(P)]-[MS-DOSプロンプト]の順に選択します。

MS-DOSプロンプトが起動します。

3

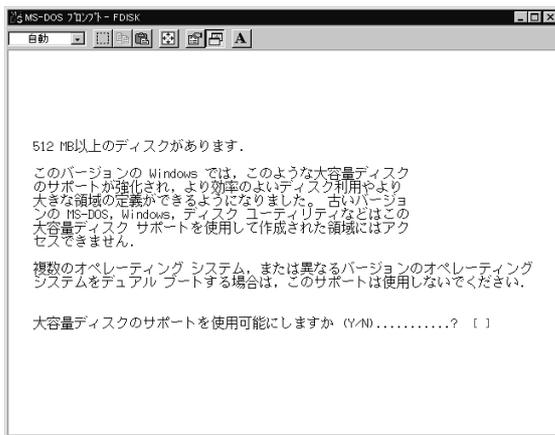


FDISKと入力し、 キーを押します。

次のページへ続く

Windows98、Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C)を使用しているとき

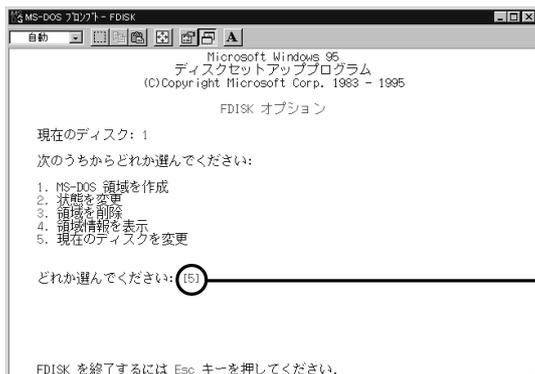
「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか」と表示されます。



1つの領域で確保する容量が2.1GB以上のときは、**[Y]** キーを押してから **[Enter]** キーを押します。2.1GB以下のときは、**[N]** キーを押してから **[Enter]** キーを押します。

注意 **[Y]** キーを押して大容量ハードディスクのサポートを使用可能にすると、ファイルフォーマットがFAT32になり、Windows98とWindows95(4.00.950 B/4.00.950 C)以外のOSでは使えなくなります。他のOSでも使いたいときやFAT32に非対応のアプリケーションを使用するときは、**[N]** キーを押してください。

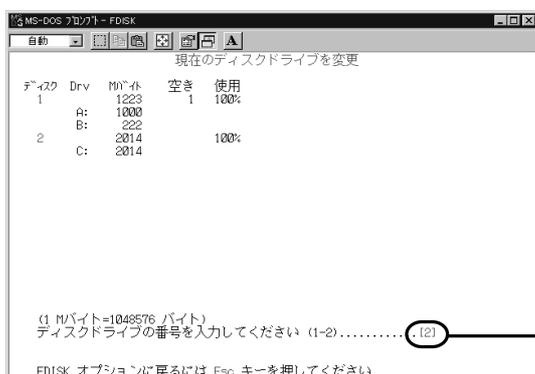
4



5を入力し、**[Enter]** キーを押します。

【5.現在のディスクを変更】が表示されないときは、「DSCの接続状態の確認」【P39】を参照してDSCが正しく認識されているか確認してください。

5



DSCのディスク番号を入力して **[Enter]** キーを押します。本書の例ではDSCを2台目のドライブとして接続しているので、2を入力します。

注意 誤って他のハードディスクをフォーマットしないよう注意してください。

領域を削除するときは、続いて手順 6 以降の操作を行ってください。

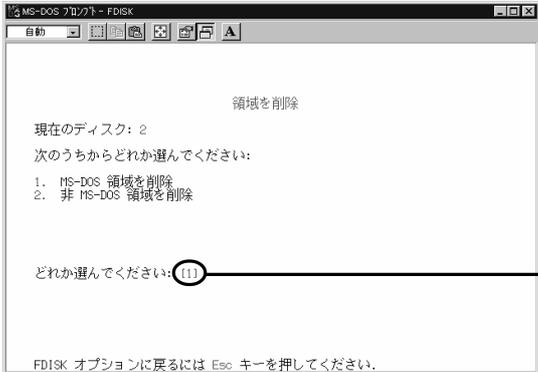
メモ 出荷時のDSCには領域は設定されていないため、初めてDSCを使用するときは、手順 6 以降の操作を行う必要はありません。引き続き「領域の作成(確保)」【P43】を行ってください。

次のページへ続く

6 [4.領域情報を表示]を選択します。選択しているドライブの領域情報が表示されるので削除しても構わない領域であることを確認してください。確認が終わったら、**[ESC]** キーを押します。

7 [3.領域を削除]を選択します。

8



領域を削除

現在のディスク: 2

次のうちからどれか選んでください:

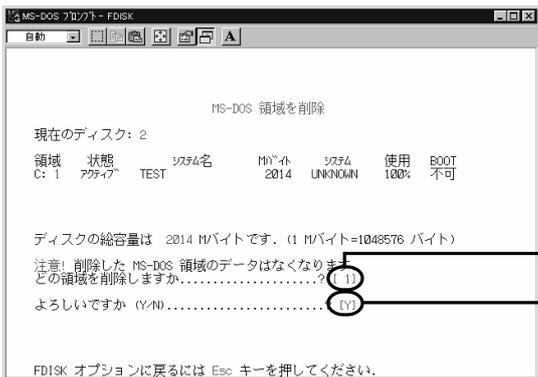
1. MS-DOS 領域を削除
2. 非 MS-DOS 領域を削除

どれか選んでください: (1)

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

1を入力し、**[Enter]** キーを押します。

9



MS-DOS 領域を削除

現在のディスク: 2

領域	状態	システム	Mバイト	システム	使用	BOOT
C: 1	アクティブ	TEST	2014	UNKNOWN	100%	不可

ディスクの総容量は 2014 Mバイトです。(1 Mバイト=1048576 バイト)

注意! 削除した MS-DOS 領域のデータはなくなりま

どの領域を削除しますか.....? (C:1)

よろしいですか (Y/N)..... (Y)

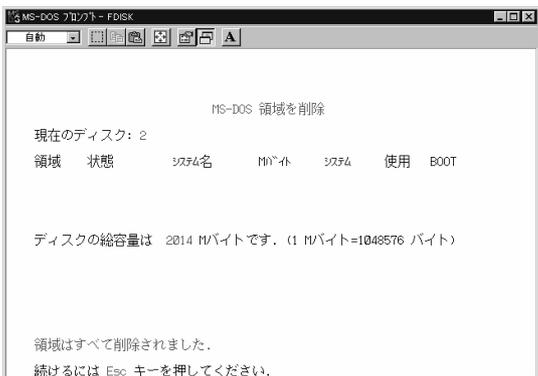
FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

ドライブ名を入力し、**[Enter]** キーを押します。

Yを入力し、**[Enter]** キーを押します。

領域が削除されます。

10



MS-DOS 領域を削除

現在のディスク: 2

領域	状態	システム	Mバイト	システム	使用	BOOT
C: 1	アクティブ	TEST	2014	UNKNOWN	100%	不可

ディスクの総容量は 2014 Mバイトです。(1 Mバイト=1048576 バイト)

領域はすべて削除されました。

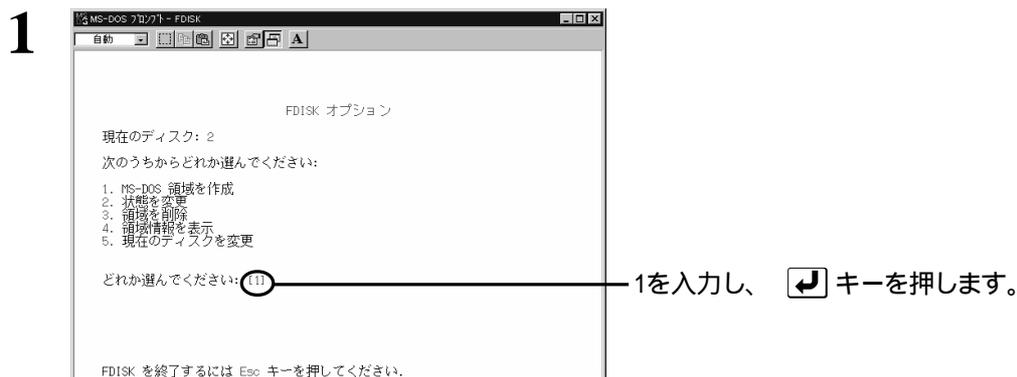
続けるには Esc キーを押してください。

[ESC] キーを押します。

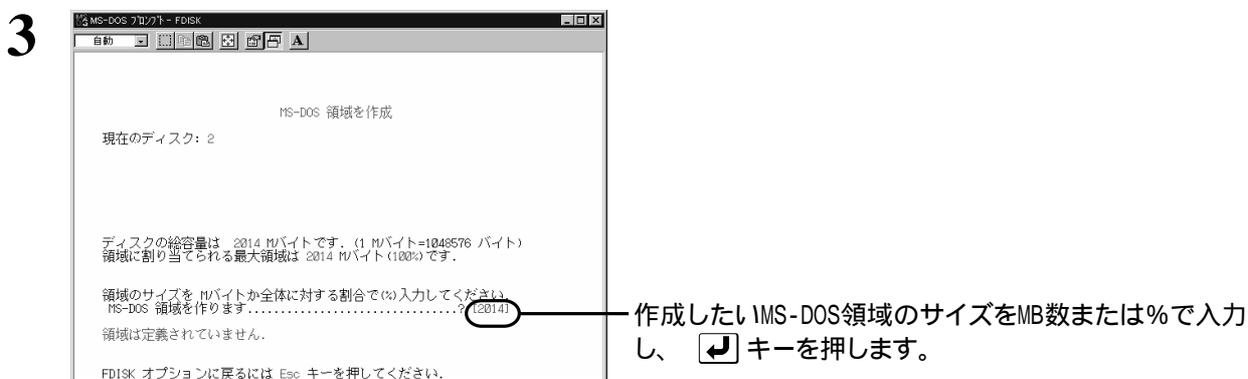
以上で領域の削除は完了です。

次へ 任意の容量で領域を作成します。【P43「領域の作成(確保)」】

4 領域の作成（確保）



指定した容量の領域が作成されます。



4 作成する領域の数だけ手順 1 ~ 3 を繰り返します。

5 すべての領域を作成したら、 キーを押します。FDISKの初期画面に戻ったら、再度 キーを押してFDISKを終了させます。

6 MS-DOSプロンプトを終了して、[スタート]-[Windowsの終了(U)]を選択します。[コンピュータを再起動する(R)]を選択して[はい(Y)]ボタンをクリックします。

次のページへ続く

作成した領域は、パソコンの再起動後にドライブとして認識されます。

次へ 認識されたドライブをフォーマットします。【下記「フォーマット」】



作成した領域の数だけ新しいドライブが追加されます。

5 フォーマット

1 [マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックし、フォーマットしたいドライブをクリックします。

2 [ファイル(F)]-[フォーマット(M)]を選択します。

3



1 選択

2 クリック

[フォーマットの種類]と[オプション]で実行したいフォーマットのパラメータを選択し、[スタート(S)]ボタンをクリックします。

4



1 クリック

フォーマットしてもよければ [OK] ボタンをクリックします。

5 実行中は進行状況がグラフ表示されます。終了すると [フォーマット] ダイアログボックスに戻ります。[閉じる(C)]ボタンをクリックします。

以上でフォーマットは終了です。

DSCを起動用ハードディスクとして使用するとき、DSCにOSをインストールしてください。OSのインストール手順は、OSのマニュアルを参照してください。

WindowsNT4.0/3.51でのフォーマット

WindowsNT4.0/3.51を使用しているときのフォーマット手順を説明します。

△注意 フォーマットするときは、必ずOSのマニュアルを参照してください。

1 WindowsNT4.0/3.51を起動します。

2 [スタート]-[プログラム(P)]-[管理ツール(共通)]-[ディスクアドミニストレータ]を選択します。

WindowsNT3.51の場合は、[管理ツール]グループの[ディスクアドミニストレータ]をダブルクリックしてください。

△注意 表示されたドライブ構成を把握してから作業してください。誤って他のハードディスクをフォーマットしないように注意してください。

DSCを新たに増設した場合

「システム構成を更新します。」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。

3 [ディスクアドミニストレータ]が起動します。DSCのドライブをクリックします。

追加したドライブが表示されないときは、SCSIインターフェースボードのドライバは正しくインストールされているか、SCSIケーブルは正しく接続されているか確認してください。【SCSIインターフェースボードのマニュアル参照】

4 メニューバーから[パーティション(P)]-[作成(C)]を選択します。

5 [パーティションの作成]ダイアログボックスが表示されます。作成するパーティションのサイズを入力して[OK]ボタンをクリックします。

WindowsNT3.51の場合は[プライマリパーティションの作成]ダイアログボックスが表示されます。

6 メニューバーから[パーティション(P)]-[今すぐ変更を反映(O)]を選択します。

WindowsNT3.51の場合は[パーティション(P)]-[直ちに変更を反映(O)]を選択してください。

7 「ディスク構成を変更しました。変更結果を保存しますか?」というメッセージが表示されたら[はい(Y)]ボタンをクリックします。

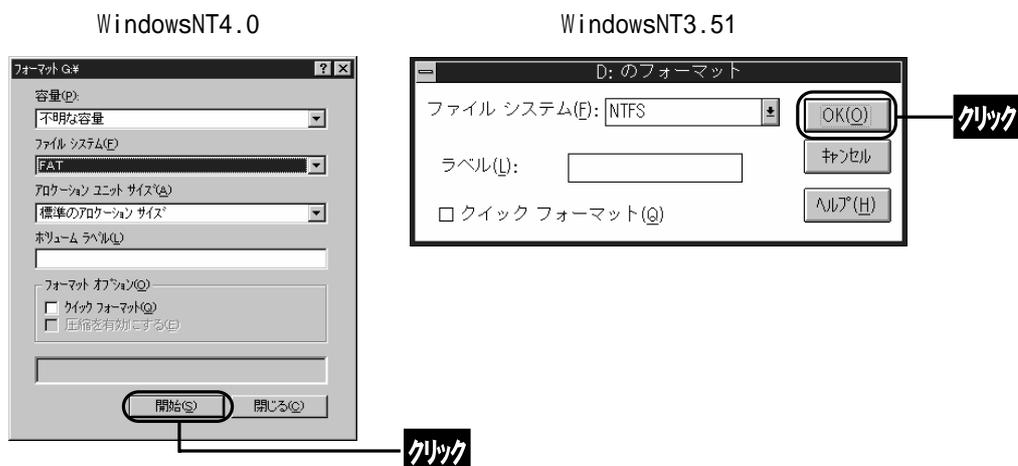
8 「ディスクは正常に更新されました。」というメッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

9 フォーマットするパーティションを選択した後、メニューバーから[ツール(T)]-[フォーマット(F)]を選択します。

次のページへ続く

10 各項目を設定し、[開始(S)]ボタン(WindowsNT3.51の場合は[OK]ボタン)をクリックします。

WindowsNT4.0/3.51だけでDSCを使用するときは、[NTFS]を選択してください。
WindowsNT4.0/3.51以外のOSにも認識させたいときは、[FAT]を選択してください。



11 「フォーマットが完了しました。」というメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。

WindowsNT3.51の場合は[フォーマット完了]ダイアログボックスが表示されます。

以上でWindowsNT4.0/3.51でのフォーマットは終了です。

正常にフォーマットされると、DSCがドライブとして認識されます。

- WindowsNT4.0の場合 作成した領域が、[マイコンピュータ]に新しいドライブとして追加されています。
- WindowsNT3.51の場合 作成した領域が、[ファイルマネージャ]に新しいドライブとして追加されています。

Windows3.1、MS-DOS でのフォーマット

Windows3.1、MS-DOSに付属のフォーマットプログラムFORMAT.EXEを使用したフォーマット手順の概略を説明します。

DSC-U13GTRIは、Windows3.1、MS-DOSには対応していません。

注意 フォーマットする際は必ずOSのマニュアルを参照してください。

フォーマットの前に

誤って他のハードディスクをフォーマットしないように、次の方法で事前に現在のドライブ構成を把握しておいてください。

- Windows3.1 [ファイルマネージャ]で表示されているドライブアイコンで知ることができます。
- MS-DOS DIRコマンドでアクセス可能なドライブから知ることができます

新しく接続したDSCはフォーマット後に認識されます。フォーマット前はDSCは認識されていません。

フォーマット手順

▲注意 次の手順は、NEC製MS-DOS 6.2のFORMAT.EXEを使用した場合のもので、他のOSを使用しているときは、OSの定めるフォーマットプログラムを使用してください。

1 パソコンの電源スイッチをONにし、MS-DOSを起動します。

MS-DOSのプロンプトが表示されます。

2 FORMAT /H と入力します。

FORMAT.EXEが起動します。

3

FORMATコマンド Ver. X.XX
Copyright (C) NEC Corporation XXXX.XXXX

装置番号 2

フォーマット形式 拡張フォーマット

マップ

領域確保

領域解放

初期化

状態変更

終了

接続状況
1: 固定ディスク #1
2: 固定ディスク #2

矢印キーで項目を選択し、リターンキーを押してください
(ESCキーを押すと処理を中止し、前画面に戻ることができます)

DSCの装置番号を入力します。本書の例ではDSCを2台目のドライブとして接続しているため、装置番号を2に変更します。

[初期化]を選択します。

4 「装置全体を初期化します。よろしいですか」というメッセージが表示されます。[はい]を選択します。

初期化には数分から数十分がかかります。初期化中はパソコンの電源スイッチをOFFにしないでください。

5 「装置の初期化を終了しました」というメッセージが表示されたら、などの任意のキーを押します。

FORMATコマンドメニューに戻ります。

6 [領域確保]を選択します。

7

FORMATコマンド	Ver. X.XX Copyright (C) NEC Corporation XXXX.XXXX
装置番号	2
フォーマット形式	拡張フォーマット
確保容量	XXXX MB
先頭シリンダ	0001
システム	転送する
ボリュームラベル	

実行

確保する容量は何メガバイトですか HELPキーを押すとマップを表示します
確保可能な容量は1 ~ XXX MBです
(ESCキーを押すと処理を中止し、前画面に戻ることができます)

確保容量 =

[実行] を選択します。必要に応じて [システム] や [ボリュームラベル] などの項目も設定します。

[確保容量] に確保したい領域のサイズをMB数で入力します。

▲注意 1つの領域として確保できる容量は2047MBまでです。

8 「何かキーを押してください」というメッセージが表示されたら、などの任意のキーを押します。

FORMATコマンドメニューに戻ります。

9 確保したい領域が複数あるときは、手順 6 ~ 8 を繰り返します。 領域の確保が終了したら、[終了] を選択します。

10 パソコンを再起動します。

以上でDSCのフォーマットは終了です。

正常にフォーマットされると、DSCがドライブとして認識されます。

- Windows3.1の場合 作成した領域が、[ファイルマネージャ] に新しいドライブとして追加されています。
- MS-DOSの場合 DIRコマンドで作成した領域(ドライブ)の情報を確認できるようになります。

メモ DSCを再度フォーマットするときは、各OSのマニュアルを参照してください。

バックアップ

バックアップの必要性

ハードディスクに蓄えられた重要なデータを保護するために、外部のメディアにデータの複製を作成することを「バックアップ」といいます。大容量ハードディスクには、日々大量のデータが格納されます。事故や人為的なミスなど不測の事態でデータを失うことは、業務上大きな損失となります。

注意 ハードディスクを使用する場合は、日常的にバックアップを作成してください。

バックアップ用のメディア

バックアップ用のメディアには次のようなものがあります。

- ・フロッピーディスク
- ・光磁気ディスク(MO)
- ・増設ハードディスク
- ・ネットワーク(LAN)サーバ

大容量ハードディスクのバックアップ先としてフロッピーディスクを選んだ場合、大量のフロッピーディスクが必要になります。また時間もかかるため、効率的な手段とはいえません。可能な限りMOなど容量の大きいメディアにバックアップすることをおすすめします。

メモ Windows95付属のバックアップツールで、MOにデータをバックアップする場合、バックアップするファイル容量の合計がMOディスクの空き容量を超えないようにしてください(Windows95付属のバックアップツールの仕様です)。バックアップするときは必要なファイルだけを選択し、MOディスクの空き容量に納まるようにしてください。

バックアップデータの復元(リストア)

バックアップデータを元のハードディスクに復元することをリストアといいます。

リストアコマンド/ツールは、一般的にバックアップコマンド/ツールで指定されたもの以外は使用できません。マニュアルなどで確認して使用してください。

仕様

製品仕様

最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ (<http://www.melcoinc.co.jp/>) を参照してください。

	DSC-U4.3GTR	DSC-U8.4GTR
ディスク容量(*1)	4.3GB	8.4GB
インターフェース仕様	Ultra SCSI (FAST-20)	
最大転送速度(理論値)	Ultra SCSI SCSI-2	20MB/sec 10MB/sec(*2)
セクタサイズ	512byte	
ディスク回転速度	5400rpm以上	
外部ターミネータへの電源供給	供給する	
SCSI-ID	0~7の範囲で設定可能(出荷時設定:0) SCSI-ID7は、通常SCSIインターフェースボードが使用します。	
消費電力	15W	
温度範囲	10~35	
湿度範囲	10~90%(結露無きこと)	
外形寸法(mm)	42(W)×119(H)×249(D)	
電源	AC100V 50/60Hz	
対応機種	<ul style="list-style-type: none"> ・DOS/V機(OADG仕様) (弊社製SCSIインターフェースと併用) ・NEC製 PC98-NXシリーズ (弊社製SCSIインターフェースと併用) ・NEC製 PC-9821シリーズ (弊社製SCSIインターフェースと併用) ・PCMCIAスロットを搭載するノート型パソコン (弊社製SCSIインターフェースと併用) ・Power Macintoshシリーズ(*3) 	
対応OS	<ul style="list-style-type: none"> ・DOS/V機 Windows98/95 WindowsNT4.0/3.51 Windows3.1 MS-DOS 6.2/V以降 PC DOS J6.3/V以降 ・PC98-NXシリーズ Windows98/95 WindowsNT4.0 ・PC-9821シリーズ Windows98/95 WindowsNT4.0/3.51 Windows3.1 NEC MS-DOS 6.2以降 ・Macintosh 漢字Talk7.5以降 Mac OS7.6以降 	

△注意 ハードディスクの動作時、特に起動時やアクセス時、リトラクト時などに音がすることがありますが、問題ありません。

*1: 記載のハードディスク容量は、1GB = 1000³byteで計算しています。OSやアプリケーションでは1GB = 1024³byteで計算されているため、表示される容量が異なります。

*2: SCSI-2インターフェースにDSCを接続したときは、データ転送はSCSI-2で行われます。

*3: Power Macintosh 6000シリーズには対応していません。また、SCSIポートを搭載していない機種をお使いの場合は、弊社製SCSIインターフェースボードIFC-WSPAを別途ご購入ください。

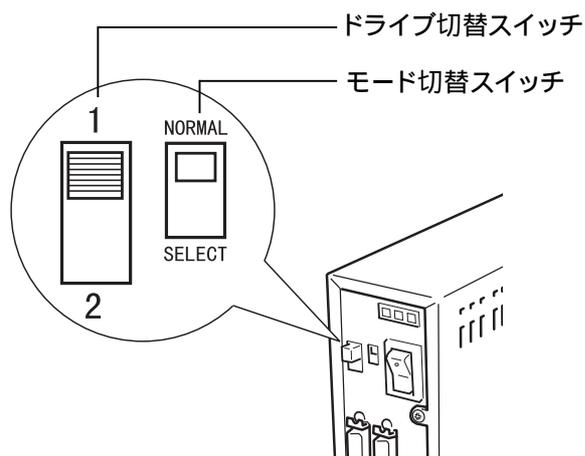
	DSC-U13GTR
ディスク容量(*1)	13GB
インターフェース仕様	Ultra SCSI (FAST-20)
最大転送速度(理論値)	Ultra SCSI 20MB/sec SCSI-2 10MB/sec(*2)
セクタサイズ	512byte
ディスク回転速度	5400rpm以上
外部ターミナータへの電源供給	供給する
SCSI-ID	0~7の範囲で設定可能(出荷時設定:0) SCSI-ID7は、通常SCSIインターフェースボードが使用します。
消費電力	15W
温度範囲	10~35
湿度範囲	10~90%(結露無きこと)
外形寸法(mm)	42(W)×119(H)×249(D)
電源	AC100V 50/60Hz
対応機種	<ul style="list-style-type: none"> ・DOS/V機(OADG仕様) (弊社製SCSIインターフェースと併用) ・NEC製PC98-NXシリーズ (弊社製SCSIインターフェースと併用) ・NEC製PC-9821シリーズ (弊社製SCSIインターフェースと併用) ・PCMCIAスロットを搭載するノート型パソコン (弊社製SCSIインターフェースと併用) ・Power Macintoshシリーズ(*3)
対応OS	<ul style="list-style-type: none"> ・DOS/V機 Windows98 Windows95(4.00.950/4.00.950a)(*4) Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C) WindowsNT4.0/3.51 ・PC98-NXシリーズ Windows98/95 WindowsNT4.0 ・PC-9821シリーズ Windows98(*4) Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C)(*4)(*5) WindowsNT4.0/3.51 ・Macintosh 漢字Talk7.5以降 Mac OS7.6以降
対応SCSIインターフェース	DSC-U13GTRを購入した際に付属している別紙「DSC-U13GTRの対応SCSIインターフェース」を参照してください。

△注意 ハードディスクの動作時、特に起動時やアクセス時、リトラクト時などに音がすることがありますが、問題ありません。

- *1: 記載のハードディスク容量は、1GB = 1000³byteで計算しています。OSやアプリケーションでは1GB = 1024³byteで計算されているため、表示される容量が異なります。
- *2: SCSI-2インターフェースにDSCを接続したときは、データ転送はSCSI-2で行われます。
- *3: Power Macintosh 6000シリーズには対応していません。また、SCSIポートを搭載していない機種をお使いの場合は、弊社製SCSIインターフェースボードIFC-WSPAを別途ご購入ください。
- *4: 8.4GBを超える容量のフォーマットには付属のCD-ROMに収録されているDisk Formatterを必ず使用してください。
- *5: Windows95を使用している場合、SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース(ノート用PCカード、弊社製IFC-NSPなど)では、8.4GBを超える容量を使用できません。



切替スイッチの設定



モード切替スイッチ

NORMAL (出荷時設定)	DSCを1台のハードディスクとして使用します。
SELECT	DSCを2分割してどちらかのドライブを使用します。

ドライブ切替スイッチ

1 (出荷時設定)	ドライブ1を有効にします。 (ドライブ2は無効)
2	ドライブ2を有効にします。 (ドライブ1は無効)

モード切替スイッチで「NORMAL」を選択しているときは、ドライブ切替スイッチの設定は必要ありません。

保証書について

本製品付属の保証書には保証期間と保証規定が記載されています。内容をお確かめになり、大切に保管してください。

ユーザー登録について

ユーザー登録はがきに必要事項を記入して郵送して頂ければ、弊社製品のユーザーとして登録いたします。

本製品に対するサポートやバージョンアップなどのサービスは、ユーザー登録されている方であれば受けられません。

ユーザー登録後に製品を譲渡した場合、ユーザー登録は変更できません。

修理について

故障と思われる症状が発生したときは、まずマニュアルを参照して設定や接続が正しいか確認してください。改善されない場合は、次の事項をお調べになった資料と保証書の原本を添付し、弊社修理センター宛に製品を直接お送りください。

返送先 [氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号]

平日昼間の連絡先

[氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号]

修理対象のメルコ製品名

弊社製品ハードウェア シリアルナンバー

弊社製品ソフトウェア シリアルナンバー

具体的な症状/エラーメッセージ

発生状況 [始めから/ある日突然/環境を変えたら]

発生頻度 [必ず/頻繁/時々/時間が経つと、他]

コンピュータ [本体メーカー名/型番/シリアルナンバー]

ハードディスク [メーカー名/型番/シリアルナンバー]

ディスプレイ [メーカー名/型番/シリアルナンバー]

その他周辺機器 [メーカー名/型番/シリアルナンバー]

OS(オペレーティング・システム)

[ソフト名/メーカー名/バージョン]

製品以外の添付品 [付属ソフトなど]

製品送付先 〒456-0023 名古屋市熱田区六野2-1-3 中京倉庫内33号6階
株式会社メルコ 修理センター宛

電話番号 052-889-2104

ご依頼いただいた修理品以外に関するお問い合わせは承っておりません。

宅配便など、送付の控えが残る方法でお送りください。郵送は固くお断りいたします。

送料は送り主様のご負担とさせていただきます。なお、輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

修理にお送りいただく際に、弊社への事前連絡は不要です。

ハードディスクをお送りいただいた場合、そのハードディスクはフォーマットいたします。必要なデータは事前にバックアップを作成しておいてください。

修理期間は、製品の到着後7日程度（弊社営業日数）を予定しております。

弊社製品の情報は次の方法で入手できます



インター
ネット

<http://www.melcoinc.co.jp/>
(ミラーサーバ <http://www.melcoinc.com/>)



製品
サポート

インフォメーションセンター

〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15
株式会社メルコ ハイテクセンター内



NIFTY
SERVE

MELCO Station < GO SMELCO >



FAX情報

052-614-6911

情報を受け取りたいFAXの電話でダイヤルし、
音声案内に従って操作してください。
ブッシュ信号(ピ・ボ・バ音)の出るFAXを
使用してください。

本製品のサポートは下記で承っております。

<東 京> **03-5350-7878** (NEC)
03-5350-7990 (DOS/V、Mac)

月～金 9:30～12:00/13:00～19:00 祝日を除く
土/祝 9:30～12:00/13:00～17:00 日曜日を除く

<名古屋> **052-619-1821** (NEC)
052-619-1897 (DOS/V、Mac)

月～金 9:30～12:00/13:00～17:00 祝日を除く
事前にメモとペンを用意し、次の事項を確認して
おいてください。
・コンピュータ名と使用OS
・本製品の製品名とシリアルナンバー
・現象(具体的なエラーメッセージなど)

「メルブック」シリーズ

メモリを知ろう	386マシンをマルチメディアパソコンにする	外部記憶装置をグレードアップしよう
LANを知ろう	CPUアクセラレータを知ろう	イメージクリップボードでホームページを つくろう
外部記憶装置を知ろう	イメージクリップセットとWordで 年賀状をつくろう	インターネットを始めよう
Windowsを知ろう		ミニコンポ 企業での導入事例

1冊1,000円 + 送料270円 書店では販売しておりません。

お申し込み先

- | | |
|------------|---|
| 1. インターネット | http://www.melcoinc.co.jp/qa/info3.html |
| 2. FAX情報 | 052-614-6911(BOX No.0800) |
| 3. 郵送 | 〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15 株式会社メルコ 備品販売窓口 |